

1. 件名：「泊発電所3号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（144）」

2. 日時：令和4年9月14日（水）10時00分～12時35分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来主任技術研究調査官、松末技術参与

北海道電力株式会社：藪執行役員 他13名※

電力中央研究所：1名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

・ 第1065回（令和4年8月5日）原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合における泊発電所3号炉に係る審議結果（スケジュール関係）とその対応

・ 泊発電所3号炉 残されている審査上の論点とその作業方針および作業スケジュールについて

<<本年8月10日に受取済み>>

・ 泊発電所 火山影響評価のうち立地評価について

・ 泊発電所 火山影響評価のうち立地評価について（補足説明資料）

・

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	原子力規制庁タニです。時間になりましたので、ヒアリングを始めたいと思います。今日のヒアリングの案件としては、
0:00:12	泊発電所火山影響評価のうち立地評価についてということと、あと審査全体のスケジュールの関係の資料がいただいていますので、
0:00:23	これをお願いします。で、資料全体のスケジュールっていうのは今日、今日
0:00:30	資料としては出ているということであと火山の方は、8月10日に提出を受けている資料で、ヒアリングをしたいです。ちょっとこれ、
0:00:42	資料提出されたのはもう1ヶ月以上前なんですけど、そのあとに、
0:00:49	北海道電力の要望もあって松波とか、
0:00:52	地震動を優先させるということですね、この間に松波のヒアリングにカイダとか、地震動のヒアリング或いは現地確認というのがあって、
0:01:03	このタイミングにちょっとこう、資料を受け取ると時間が空いてますけど、このタイミングになったということです。
0:01:10	それでは
0:01:12	資料の方の
0:01:13	説明からよろしく願いいたします。まず花山。
0:01:18	花山の方の資料の説明をお願いします。
0:01:23	はい。北海道電力のマツムラでし本日のヒアリングよろしく願いいたします。
0:01:28	今谷さんからあった通りまず火山の火山影響評価のうち立地評価について説明させていただきます。すいません、もうちょっと大きめにしゃべってください。はい。はいすいません。
0:01:43	火山につきましては昨年10月14日の審査会合それから今年3月のヒアリング、それを踏まえて全体まとめましたので、
0:01:54	要点を絞ってご説明をしたいと思います。説明時間50分程度で、ナカヤマの方から説明いたしますよろしく願いいたします。
0:02:05	北海道電力の仲山です。資料を説明させていただきます。前回、令和4年3月ヒアリングで提示させていただいた資料から、ヒアリング時にいただいた事実確認のコメントを踏まえ、一色修正を実施しております。
0:02:19	また、A3で今年3月の末の、今後の論点とスケジュールに関する審査会合においていただいた敷地周辺で火砕流の痕跡があるか否かというコメントに対応するため、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:31	積丹半島西岸で実施したボーリング調査の柱状図に、軽石と記載されているものにつきましては、新たに火山灰分析、薄片観察等を実施し、
0:02:41	その堆積物の評価、
0:02:43	を新たに実施してございます。その詳細につきましては、補足説明資料の4章に掲載しております。
0:02:49	加えましてその後実施した先行他電力の資料レビュー、こちらを踏まえまして、大きく資料構成見直しでございます。そういった状況ですので、今回の説明につきましては本編資料、
0:03:01	内容意識要点をまとめて説明させていただきます。
0:03:05	2ページをお願いします。
0:03:08	2ページから3ページには、令和3年10月審査会合における指摘事項を示してございます。
0:03:15	4ページをお願いします。
0:03:19	4ページから6ページには、その指摘事項に対する回答方針を示しております。
0:03:25	7ページをお願いします。
0:03:30	7ページには、本編資料の目次、示しております。目次に示します通り、今回、立地評価までの説明とさせていただきます。
0:03:38	9ページをお願いします。
0:03:44	9ページから、1章、火山影響評価の概要を示してございます。
0:03:49	11ページをお願いします。
0:03:53	11ページには、火山影響評価ガイドに示される評価フローを示してございます。
0:03:59	当フローに追記してます通り、地理的領域内にある第4紀火山は35火山あり、そのうち、完新世に活動があった風間仲座、完新世に活動はないものの、
0:04:10	将来の活動可能性が十分小さいとは言えない火山が6%。
0:04:15	計13火山が原子力発電所に影響をおよぼし得る火山として抽出され、以降の火山活動に関する個別評価を実施してございます。
0:04:24	13ページをお願いします。
0:04:28	13ページには、本編資料における検討の流れ、示してございます。
0:04:33	2の2章、原子力発電所に影響をおよぼし得る火山の抽出におきましては、先ほどご説明させていただいた通り、13火山が抽出されます。
0:04:41	次に、2-3章、運用期間中の火山の活動可能性評価を実施いたします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:48	まず、2-3-1 章過去に巨大噴火が発生した火山の検討において、輸出物堆積が 20 立方キロメートル以上であり、
0:04:56	火砕流堆積物が広範囲に分布する噴火が発生した火山を抽出いたしました。
0:05:02	これにより抽出した支笏カルデラクッタラ登別火山群、洞爺カルデラの 3 火山に対しましては、
0:05:09	2-3-2 章で整理した巨大噴火の可能性評価方法を用いまして、それぞれの 3-3 章から 2-3 章、3-5 章において、
0:05:19	巨大噴火の可能性を評価いたします。
0:05:22	その結果を踏まえ、尿 4 章において設計対応不可能な火山事象に関する個別評価を実施いたします。
0:05:29	なお、過去に巨大噴火が発生した火山として抽出した 3 火山のうち、敷地近傍に火砕流が到達している洞爺カルデラについては、
0:05:39	洞爺火砕流に関する検討として、本フローの右側に示します、積丹半島西岸における、
0:05:46	洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討を実施しております。
0:05:51	本検討につきましては、令和 4 年 3 月末の審査会合でいただいたコメントに対応するものとなっております。
0:05:58	また、65 ページの方で詳述しておりますが、洞爺火砕流の分布は、敷地から約 10 キロメートル程度離れた共和町幌似付近まで認められるものと考えられますが、
0:06:10	さらに遠方まで到達したとする文献等も認められることを踏まえ、
0:06:14	洞爺火砕流が敷地に到達した可能性に関する検討を実施しております。
0:06:20	これらの洞爺火砕流に関する検討につきましては、それぞれ補足説明資料、4 章及び 7 章に掲載しております。
0:06:28	14 ページをお願いします。
0:06:32	14 ページ以降、2 章、立地評価の検討について示しております。
0:06:37	17 ページをお願いします。
0:06:42	17 ページには令和 3 年 10 月審査会合以前の文献調査と、それ以降の追加文献調査の概要を示しております。
0:06:50	日本の火山データベース、ニシキほか編 2012 につきましては、Web 上で更新がなされる可能性があることから、今年 7 月時点のものを改めて確認しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:01	また、7月に公開された大規模噴火データベース、こちらにつきましても、引用文献も含め、確認を実施しております。
0:07:09	18ページをお願いします。
0:07:13	18ページから20ページには、追加文献調査の詳細を示してごさいます。
0:07:19	この表、
0:07:20	このうちヒット件数につきましては、2021年12月確認時のものを記載してごさいますが、
0:07:27	文献収集は、それ以降も継続的に実施しており、
0:07:30	2022年7月までの間に公表されたものにつきましても、個別に収集した文献の項目に追加して計上しております。
0:07:39	21ページをお願いします。
0:07:44	21ページから24ページには、
0:07:46	検索の結果等を踏まえ、令和3年10月審査会合以降、評価に関連するものとして、新たに収集した46の文献について、どのような知見がどのような、
0:07:58	どのように評価に寄与しているか分かるよう整理し、一覧表として示してごさいます。
0:08:03	26ページをお願いします。
0:08:10	27ページから、2-2章、原子力発電所に影響をおよぼし得る火山の抽出の検討について示してごさいます。
0:08:18	28ページをお願いします。
0:08:22	28ページには、この抽出結果を29ページには、その抽出フローを示してごさいます。
0:08:29	また、30ページから32ページには、この抽出根拠を、地理的領域内にある第4紀火山についてそれぞれ示しており、その詳細については、補足説明資料1章に掲載しております。
0:08:41	また、従来、資料の記載については、黄色の箱囲みで示してごさいましたが、
0:08:48	28ページ、左上に示します通り、検討のまとめに該当する記載につきましては、わかりやすさの観点で、青囲み、水色ハッチングで記載するようにしてごさいます。
0:09:00	また、文献の記載をそのまま引用している箇所につきましても、
0:09:04	水、緑、緑色ハッチングで記載するように変更をしてごさいます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:09	34 ページをお願いします。
0:09:16	35 ページから 2-3 章、運用期間中の火山の活動可能性評価の検討を示しております。
0:09:22	すいません 38 ページをお願いします。
0:09:27	このうち、39 ページから 2-3-1 章、過去に巨大噴火が発生した火山の抽出に関する検討を示しております。
0:09:35	40 ページをお願いします。
0:09:39	40、40 ページには、過去に巨大噴火が発生した方の抽出結果を示しております。
0:09:46	火山影響評価ガイドにおきましては、巨大噴火について、マグマが一気に地上に噴出し大量の火砕流となるような噴火であり、
0:09:54	噴出物の量が数十立方キロメートル程度を超えるようなものとさせていただきます。このため、このガイドを踏まえ、噴出物堆積が 20 立方キロメートル以上であり、
0:10:05	火砕流堆積物が広範囲に分布する火山を、過去に巨大噴火が発生した火山として抽出いたします。
0:10:12	この抽出結果を、
0:10:14	40 ページ中段に示す表に記載させていただきます。
0:10:18	また、13 火山の火山噴出物の分布のうち、特に敷地及び敷地近傍の分布につきましては、基礎データとして、42 ページから 49 ページに示させていただきます。
0:10:31	40 ページ、下矢印下の箱書きになりますが、13 火山のうち、過去に巨大噴火が発生した火山については、支笏カルデラ、洞爺カルデラであり、
0:10:41	過去に巨大噴火が発生した可能性が否定できない火山は、クッタラ登別火山群でございます。
0:10:48	このため、支笏カルデラクッタラ述べぼり別火山群、洞爺カルデラについて、運用期間中における巨大噴火の可能性評価を行います。
0:10:57	41 ページをお願いします。
0:11:00	41 ページには、右の図、産総研 2020、20 万分の 1 日本火山図。
0:11:06	に示される 13 火山抽出した 13 火山の不実物の分布を示させていただきます。
0:11:13	この 13 火山のうち、広範囲に火山噴出物の分布が確認される火山は、支笏カルデラ、洞爺カルデラでございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:22	また、安野宮坂 R2020 を踏まえますと、
0:11:25	クッタラ登別火山群の火山噴出物は確認地点は少ないものの、北東方向に 60 キロメートル程度の地点で火砕流堆積物が認められます。
0:11:35	その他の 10 火山につきましては、その火山噴出物の分布は山体近傍に限定されます。
0:11:42	また、敷地近傍におきましては、
0:11:44	ホームページ右の図、拡大図に示します通り、共和町幌似付近に、洞爺火砕流堆積物が、
0:11:51	岩内兵や南方には、
0:11:53	ニセコ雷電火山群の火山噴出物が認められることから、
0:11:57	13 火山のうち、火山噴出物の分布が敷地に近接する火山は、大屋カルデラ、ニセコ雷電火山群の 2 火山となります。
0:12:06	42 ページをお願いします。
0:12:12	42 ページから 49 ページには、
0:12:15	当社地質調査の結果を踏まえた敷地及び敷地近傍における火山噴出物の分布に関する危険等を示してございます。
0:12:24	42 ページにはそのまとめを 43 ページには、敷地近傍の火山地質図に、
0:12:29	当社地質調査の調査位置を示したものを示しております。
0:12:34	また、44 ページから 49 ページには、本検討に関する地質調査の結果を示しております。
0:12:41	敷地近傍の調査結果になりますが、44 ページ、45 ページをお願いします。
0:12:49	この 44 ページには、敷地近傍の共和町幌似の露頭である露頭①の露頭状況を示しております。
0:12:56	この露頭調査の結果、
0:12:58	この共和町幌似付近軽石まじり火山灰の層層を呈する洞爺火砕流堆積物が認められます。
0:13:06	また、45 ページには、敷地近傍の岩内平安南方、老古美周辺に位置する老古美地点②の露頭状況を示しております。
0:13:16	この老古美周辺には軽石及びスコリアが含まれる。
0:13:21	れきまじり火山灰の層層を呈するニセコ火砕流堆積物が認められます。
0:13:26	戻っていただいてすみません 42 ページをお願いします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:34	大矢火砕流堆積物につきましては、文献、安間宮坂とある、2020 によりますと、106 k A に発生した洞爺カルデラの最大規模の噴火に伴い噴出したものでございます。
0:13:46	またニセコ火砕流堆積物につきましては、先ほどご紹介した老古美地点②でフィッシュトラックの年代測定実施しておりまして、こちら、測定値 A、 $19 \pm 0.02 \text{Ma}$ を経てございます。
0:14:02	すいませんまた 46 ページの方お願いします。
0:14:08	46 ページにはより敷地に近接する岩内部屋西部の梨野舞納露頭の状況を示してございます。この露頭調査の結果、
0:14:17	梨野舞納露頭におきまして、
0:14:19	MMR 段丘堆積物の上位に洞爺火山灰の純層及び二次堆積物である火山灰質シルトが認められます。
0:14:27	純層及び二次堆積物への地層区分の考え方につきましては、補足説明資料の方で後程説明させていただきます。
0:14:36	なお、文献、町田ほか 1987 におきましては、洞爺火山灰について、
0:14:42	下北半島北部、大島半島一帯では、
0:14:45	火山灰層の下部に細粒カード医師を介在させるもの。
0:14:49	細粒の火山ガラスを主体とする降下火山灰であるとされており、当該露頭において、軽石が認められない状況と調和的でございます。
0:14:59	また戻っていただいて 42 ページをお願いします。
0:15:03	今お示しした梨野舞納露頭以外に、岩内部屋西部で、主に火山砕屑物からなる堆積物は認められません。
0:15:12	この岩内部屋西部で実施したボーリング調査結果につきましては、補足説明資料の 2 章のほうに掲載してございます。
0:15:20	またニセコ火山流堆積物会の改正堆積物を除き、軽石またはスコリアを含む堆積物も認められません。
0:15:28	一方で、
0:15:30	言わない部屋から見て、敷地を超えた積丹半島西岸におきましては、
0:15:35	令和 3 年 10 月、審査会合以前に実施したボーリング調査の柱状図に、軽石等との記載がなされてございます。
0:15:42	これらの記載がなされている堆積物は M I S 5 e の M m 編ん段丘の被覆層であることから、
0:15:48	令和 3 年 10 月審査会合以降、洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討を実施してございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:55	この検討の結果、積丹半島西岸において、主に火山砕屑物からなる堆積物は、洞爺火山灰、阿蘇4火山灰の純層、もしくは、これらの二次堆積物としてのみ認められ、
0:16:08	洞爺火砕流堆積物は認められません。
0:16:11	この検討の詳細につきましては、補足説明資料、4章に掲載しております。
0:16:17	また敷地におきましては、敷地内断層の活動性評価に関する当社地質調査の結果、主に火山砕屑物からなる堆積物、もしくは、
0:16:27	軽石スコリアを含む堆積物は認められず、SPFエーワン、洞爺火山灰及び、
0:16:33	対象火山灰に対比される火山ガラスが混在する堆積物が認められます。
0:16:38	以上の検討の結果、産総研2020に示された範囲である共和町幌似付近に、洞爺火砕流堆積物が、
0:16:46	岩内へ南方の老古美周辺にニセコ火砕流堆積物が認められるが、
0:16:52	これらの堆積物は、当該範囲を超えた岩内部屋西部、積丹半島西岸及び敷地には認められません。
0:17:00	すいません、58ページお願いします。
0:17:09	58ページには、クッタラ登別火山群における最大規模の噴火が巨大噴火であった可能性に関する検討のまとめ示しております。1点誤記がございますので、説明をさせていただきます。
0:17:21	④の3火砕流堆積物の分布のうち、矢印、下の箱、上から2丸目になりますが、
0:17:28	KP7の最大到達距離は、安間宮坂へとある、2020に示される支笏カルデラから南西方向に位置する登別幌別付近までの663キロであり、と記載してございますが、
0:17:42	正しくは、クッタラ登別火山群から北東方向に位置する厚真町付近までの約63キロメートルでございます。大変申し訳ございません。
0:17:52	88ページをお願いします。
0:18:00	89ページから、
0:18:03	2-3-2章、巨大噴火の可能性評価方法について示しております。
0:18:08	90ページをお願いします。
0:18:11	90ページには、その可能性評価方法について整理した結果を示しております。
0:18:18	活動履歴につきましては、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:20	網羅的な文献調査を踏まえた活動履歴から、
0:18:23	現在の活動状況を検討することといたします。
0:18:27	地球物理学的調査につきましては、下司 2016 を踏まえまして、
0:18:32	火山直下の上部地殻における巨大噴火が可能な量のマグマだまりが存在する可能性及び大規模なマグマの移動上昇等の活動に着目して、
0:18:42	地球物理学的調査から、現在のマグマだまりの状況を検討いたします。
0:18:48	このうち、地下構造につきましては、次の状況を確認することといたします。
0:18:53	地震波速度構造につきましては、
0:18:56	メルトの存在を示唆する延長な低 V_p かつ高 V_p は V_s 領域の存否。
0:19:01	あわせて、火山直下の上部地殻内における低周波地震の分布状況についても考慮いたします。
0:19:08	抵抗構造につきましては、間隙水マグマ必需湿潤状態の粘土鉱物を示唆する。
0:19:16	低比抵抗領域の存否。
0:19:19	重力異常につきましては、重力異常を踏まえた、
0:19:22	マグマだまりに関して考察されている文献、こちらを確認することといたします。
0:19:27	火山性地震のうち、低周波地震につきましては、志水ほか編 2008 を踏まえまして、低周波地震の時空間分布を確認することといたします。
0:19:38	近く遠藤につきましては、アオキ 2016 を踏まえまして、その地殻変動の状況を確認することといたします。
0:19:47	なお、参考とした文献につきましては、91 ページから 101 ページに掲載しております。
0:19:54	以上の通り整理した評価方法を踏まえ、支笏カルデラクッタラ登別火山群、洞爺カルデラについて、活動履歴、地球物理学的調査により、
0:20:03	運用期間中における巨大噴火の可能性を評価いたします。
0:20:08	102 ページをお願いします。
0:20:15	103 ページから、2-3 の 3 章、支笏カルデラの巨大噴火の可能性評価に関する検討を示しております。
0:20:22	本省の説明内容といたしましては、冒頭に評価結果。
0:20:26	①活動履歴、②地球物理学的調査の各県と示してございます。
0:20:33	なお後述するクッタラ登別火山群、洞爺カルデラの検討につきましても、同様な資料構成としてございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:40	105 ページお願いします。
0:20:45	105 ページには、支笏カルデラの巨大噴火の可能性評価の結果を示して ございます。
0:20:51	支笏カルデラにおいて、約 4 万年前に S P 湾を噴出した噴火は巨大噴火 に該当いたします。
0:20:58	支笏カルデラの活動履歴、地球物理学的調査の結果から、支笏カルデラ の現在の活動状況は巨大噴火が差し迫った状態ではないと評価でき、
0:21:09	運用期間中における巨大噴火の可能性を示す科学的に合理性のある具体 的な根拠がえられていないことから、運用期間中における巨大噴火の可 能性は十分小さいと評価されます。
0:21:21	活動利益地球物理学的調査の各検討の結果につきましては、ホームペー ジの表に示します通りでございます。
0:21:30	この各検討の詳細につきましては、106 ページから 141 ページに示して ございます。
0:21:37	円筒のエビデンスの 1 例として、118 ページ、119 ページお願いしま す。
0:21:48	118 ページから、地球物理学的調査のうち、支笏カルデラ周辺の地下構 造の検討として実施した地震波速度構造と指定校構造との比較の検討結 果を示しております。
0:22:01	119 ページ下段に示す山谷へとある 2017 に示される支笏カルデラ直下 の低比抵抗領域、市立'付近における地震波速度構造は、
0:22:13	119 ページ上段の図中、太は千賀組で示します通り、低 V p かつ低 V p V s 領域であることから、水に富む領域と考えられます。
0:22:23	この要因としましては、
0:22:25	北海道南部とマグマ供給システムが同様である、東北日本に位置する鳴 子カルデラの事例を踏まえると、下部地殻中のメルトが動かし、
0:22:34	低周波地震を伴いながら、水が浅部へ放出されることにより、水が供給 されている可能性というものが考えられます。
0:22:43	支笏カルデラと鳴子カルデラの地下構造の比較結果につきましては、
0:22:48	本編資料の巻末、参考資料に掲載してございます。
0:22:53	この検討の結果になりますが、118 ページ矢印下の箱書き、支笏カルデ ラ直下の上部地殻内には、低比抵抗領域が認められるが、
0:23:04	地震波速度構造から、当該領域は水に富む領域であり、部分熔融域では ないと考えられます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:12	142 ページをお願いします。
0:23:21	143 ページからは、2-3 の 4 章、クッタラ登別火山群の巨大噴火の可能性評価に関する検討を示してございます。
0:23:30	145 ページをお願いします。
0:23:35	145 ページには、クッタラ登別火山群の巨大噴火の可能性評価結果示しております。
0:23:41	クッタラ登別火山群において、約 9 万年前に、K T 7 を噴出した噴火は巨大噴火であった可能性が否定できません。
0:23:50	クッタラ登別火山群の活動履歴、地球物理学的調査の結果から、運用期間中における巨大噴火の可能性は十分に小さいと評価されます。
0:24:01	から、活動利益地球物理学的調査の各検討結果につきましては、
0:24:06	ホームページの表に示します通りでございます。また詳細につきましては、146 ページから 182 ページに示しております。
0:24:15	184 ページをお願いします。
0:24:23	185 ページから、2-3 の 5 章、巨大噴火の可能性評価のうち、洞爺カルデラの可能性評価に関する検討を示しております。
0:24:33	187 ページをお願いします。
0:24:38	187 ページには、
0:24:40	洞爺カルデラの巨大噴火の可能性評価の結果を示しております。
0:24:44	洞爺カルデラにおいて、約 11 万年前に T P を噴出し、現在の洞爺カルデラを形成した噴火は巨大噴火に該当いたします。
0:24:54	洞爺カルデラの活動履歴、地球物理学的調査の結果から、運用期間中における巨大噴火の可能性は十分に小さいと評価されます。
0:25:04	活動履歴、地球物理学的調査の各検討結果につきましては、
0:25:09	ホームページの表に示します通りでございます。また詳細につきましては、188 ページから 224 ページに示しております。
0:25:19	検討のエビデンスの 1 例といたしまして、207 ページをお願いします。
0:25:31	207 ページから 223 ページには、洞爺カルデラ付近の地殻変動の検討の結果を示しております。
0:25:38	107 ページには、樽井地点を固定局とした、洞爺カルデラ付近の電子基準点の条件変動の検討を示しております。
0:25:47	電子基準点の位置図につきましては、214 ページに示しております。
0:25:53	すみません 207 ページ戻っていただいて、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:55	戸谷カルデラ付近の上下変動につきましては、207 ページ中段の気候変化のグラフ等に示します通り、
0:26:03	年間 0 から 2 センチメートル程度の隆起が概ね継続してございます。
0:26:09	この原因といたしましては、208 ページから 213 ページに示す水と、2018、
0:26:16	植田江藤 R 2003 の文献を踏まえますと、
0:26:19	東北日本弧延長部である北海道南部は、
0:26:23	プレート間の固着効果、
0:26:24	周辺で発生した 1993 年北海道南清沖地震、
0:26:30	2011 年東北地方太平洋沖地震などの余効変動など、
0:26:35	様々な効果により総じて隆起傾向であり、
0:26:38	この隆起傾向は、樽井地点との上下変動量の相対的な差異をとらえているものと考えられます。
0:26:45	223 ページお願いします。
0:26:51	223 ページには、今説明させていただいた上下変動の検討に加えまして、基線長変化干渉さ、水準測量の検討も含めた、
0:27:01	地殻変動の検討のまとめ、示してございます。
0:27:05	洞爺カルデラ付近の基線長変化につきましては、2003 年十勝沖地震、2011 年東北地方太平洋沖地震などの前後に不連続が認められますが、
0:27:17	継続的な膨張または収縮傾向は認められません。
0:27:21	勧奨さによる検討の結果、洞爺カルデラ周辺においては、有珠山周辺の局所的な進行傾向が認められるものの、洞爺カルデラ規模の顕著な軸地殻変動は認められません。
0:27:34	水準測量の結果、2000 年の有珠山噴火による有珠山周辺の局所的な変動が認められるものの、洞爺カルデラ付近での顕著な隆起、または人口は認められません。
0:27:47	以上の結果、地殻変動は、有珠山周辺の局所的な沈降傾向、またはより広域の、
0:27:54	北海道南部、東北日本弧延長部、規模の隆起傾向は認められるが、
0:27:59	洞爺カルデラ規模の顕著な変位の累積は認められません。
0:28:03	226 ページをお願いします。
0:28:09	227 ページから、2 の 4 章、設計対応不可能な火山事象に関する個別評価、実施しております。
0:28:17	228 ページをお願いします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:21	228 ページには、この個別評価の総合評価を示しております。
0:28:26	13 火山のうち、支笏カルデラ、洞爺カルデラ、クッタラ登別火山群は、運用期間中における巨大噴火の可能性は十分小さいと評価されることから、
0:28:37	S P ワン、T P K T 7 を紛失した噴火以降の最大の噴火規模の噴火について評価することといたします。
0:28:46	これら以外の 10 火山につきましては、過去の最大規模の噴火について評価いたします。
0:28:53	評価対象となる設計対応不可能な火山事象は、
0:28:56	ホームページの表に示します通り、溶岩流、岩屑なだれ、地すべり及び斜面崩壊。
0:29:03	火砕物密度流、
0:29:04	新しい火口の開口、地殻変動でございます。
0:29:08	この評価結果につきましては、この表に示します通りでございます。
0:29:13	また、各課全辞書の評価の詳細につきましては、230 ページから 287 ページの方に掲載してございます。
0:29:22	本県との総合評価、228 ページ矢印下の箱書きになります。
0:29:27	設計対応不可能な火山事象が運用期間中に、敷地に到達する可能性、または敷地に影響を与える可能性は十分小さいと評価されます。
0:29:37	290 ページをお願いします。
0:29:45	291 ページから、
0:29:47	2-5 章、立地評価のまとめ、示しております。
0:29:51	192 ページをお願いします。
0:29:54	192 ページから 294 ページには、2-1 章から 2-4 章まで、それぞれの検討のまとめを再掲する形としております。こちらに当社評価一式示してございます。
0:30:07	本編資料の説明は以上となります。
0:30:10	続きまして、補足説明資料の 2 ページをお願いします。
0:30:21	補足説明資料の 2 ページには目次、示しております。
0:30:26	1 章には、地理的領域内に分布する第 4 紀火山の活動可能性評価を、ダイアグラムを用いて示しております。
0:30:33	2 章には、幌似付近及び岩内部屋西部で実施したポーリング調査結果を示しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:40	3章には、岩内フェア南方の老古美周辺において確認されるニセコ火砕流堆積物に関する検討を示しております。
0:30:50	4章には、積丹西岸における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討を示しております。
0:30:58	ご承認は、敷地における地質調査結果、こちらを示しております。
0:31:03	6章には、各文献等による支笏火砕流堆積物及び洞爺火砕流堆積物の河口からの距離と層厚に関する検討を示してございます。
0:31:14	本検討につきましては、検討の結果、支笏カルデラにつきましては、火山口からの距離の増加に応じて層厚が小さくなる傾向が認められます。
0:31:24	また洞爺カルデラにつきましても、大局的には距離の増加に応じ、層厚が小さくなる傾向が認められます。
0:31:32	7章には、
0:31:33	洞爺火砕流堆積物が堆積後に削剥された可能性があることを踏まえ、
0:31:38	今回実施いたしました洞爺火砕流が敷地に到達した可能性に関する検討を示しております。
0:31:45	今回の説明では、4章及び7章について説明をさせていただきます。
0:31:50	197ページお願いします。
0:32:03	197ページから4章、積丹半島西岸における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討について示しております。
0:32:12	98ページお願いします。
0:32:16	198ページから203ページには、本検討の結果の総合的な評価を示しております。
0:32:23	204ページからは、追加火山灰分析、クエン観察結果及び、
0:32:29	洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討のそれぞれのまとめを、
0:32:33	216ページからは、各検討の詳細について示しております。
0:32:39	198ページ、説明させていただきますと、当社は令和3年10月、審査会合以前、
0:32:46	200ページの位置図に示します。
0:32:49	言わない部屋、積丹半島西岸。
0:32:52	及び敷地におきまして、地表地質踏査、ボーリング調査等を実施した上で、火山砕屑物として、洞爺火山灰、阿蘇4火山灰の降灰層準に相当すると評価した堆積物のみが認められるとの評価を行っております。
0:33:06	一方で、言わない部屋から見て、敷地を超えた北側の積丹半島西岸の調査地点、200ページの赤囲みで示します照岸地点、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:17	古宇川左岸地点、古宇川右岸地点におきまして、これまでに実施したボーリング柱状図には軽石との記載がなされてございます。
0:33:26	この
0:33:27	軽石が洞爺火砕流を起源とするものであるか否か確認するため、
0:33:32	各地点の主要ボーリングに認められる軽石を対象に、令和3年10月審査会合以降、追加の火山灰分析及び薄片観察を実施いたしました。
0:33:44	また、柱状図に火山灰質火山灰まじりまたは火山灰と記載されている堆積物のうち、
0:33:51	洞爺火山灰、阿蘇4火山灰の降灰層準に相当すると評価した堆積物以外につきましては、
0:33:58	令和3年10月審査会合以降、それがなにものであるか明らかにするため、追加の火山灰分析を実施してございます。
0:34:07	この柱状図に、軽石火山灰質等と記載されている堆積物の一覧につきましては、202ページから203ページに示しております。
0:34:18	今回1例として、
0:34:20	積丹半島西岸の照岸地点における追加火山灰分析100円観察の結果について説明させていただきます。230ページ231ページお願いします。
0:34:35	230ページには、積丹半島西岸の地質調査位置図を示しております。231ページには、手抜き地点の詳細の調査位置及び断面図、示してございます。
0:34:48	敷地近傍の駅地点におきましては、Mm案段丘面上に位置しており、231ページに示します通り、N岸1の1から2-2、
0:34:59	ボーリングの計10本のボーリングを実施してございます。
0:35:03	232ページをお願いします。
0:35:08	132ページには、古木地点において今回追加で実施した火山灰分析、薄片観察の結果、まとめ結果のまとめ示してございます。
0:35:17	令和3年10月審査会合以前に、照岸地点で実施したボーリング柱状図には、233ページに示す表の通り、軽石や火山灰質等と記載されている堆積物が認められます。
0:35:30	このため、主要なボーリングにおいて、軽石火山灰質等と記載されている堆積物については、火山灰分析や薄片観察を実施してございます。
0:35:40	各ボーリングにおける追加火山灰分析学園観察の結果については、233ページの表に記載しており、その詳細につきましては、234ページから、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:52	294 ページに示しております。
0:35:55	1 例として、てる岸市野さんボーリングにおける検討について説明をさせていただきます。
0:36:01	238 ページお願いします。
0:36:09	238 ページには、てる岸市野さんボーリングにおける追加火山灰分析、薄片観察結果のまとめ示しております。
0:36:18	139 ページには、ボーリングコア写真、柱状図を示しております。
0:36:23	また 240 ページから 267 ページには、
0:36:27	火山灰分析、薄片観察の詳細について示しております。
0:36:32	なお、その他のボーリングにつきましても、同様な資料構成で示しております。
0:36:38	追加火山灰分析、薄片観察の結果、238 ページの矢印下になりますが、
0:36:44	震度 0.85 から 1.3 メートルの火山灰質シルト火山灰分析の結果、S P F エーワンに対比される火山ガラスが認められるものの、
0:36:55	火山ガラスの流出は少ない状況が認められます。
0:36:59	深度 1.3 から 4.95 メートルのシルト質サエキは、火山灰分析の結果、火山ガラスはほとんど含まれません。
0:37:09	深度 4.95 から 5.9 メートルの火山灰シルトにつきましては、
0:37:14	火山灰分析の結果、洞爺火山灰に対比される火山ガラスが認められるものの、火山ガラスの流出が少ない状況が認められます。
0:37:22	また柱状図に記載されている軽石編に対応する白色粒子を対象として試料を採取し、
0:37:29	こちらを火山灰分析を試みましたが、
0:37:32	顕微鏡観察の結果、屈折率測定、主成分分析に供する火山ガラスは確認されませんでした。
0:37:40	震度 6 から 6.4 メートルの火山灰。
0:37:44	6.4 から 6.5 メートル軽い日につきましては、柱状図に記載されている軽石に対応する白色粒子を対象とした薄片観察の結果、
0:37:54	当該粒子は観点、または斜長石であると判断されます。
0:37:59	239 ページお願いします。139 ページの右側にボーリング柱状図示しております。
0:38:06	このボーリング柱状図修正実施しているものではございませんが、神恵内M-3 ボーリング等、柱状図の記事に明らかに誤記である箇所、数ヶ所、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:17	認められましたので、こちらにつきましては、今回修正を実施してございます。
0:38:22	具体的に1例で、修正箇所を申しますと、422ページをお願いします。
0:38:37	422ページには、神恵内M3ボーリングのコア写真と柱状図示しております、右側の柱状図、
0:38:44	深度11.1から12.6メートルの石室火山灰まじりシルトの記事には、
0:38:51	12.05から12.20メートル。
0:38:55	やや均質な左室シルト教材と記載しておりますが、従来の柱状図にやや均質な、と記載されており、明らかな誤記であるため、
0:39:05	今回修正を実施してございます。
0:39:08	このように、明らかな動きにつきましては、今回、11箇所修正を実施してございます。
0:39:15	戻っていただいて198ページをお願いします。
0:39:23	今1例として説明させていただいた照岸地点のてる岸市野さんボーリングと同様に、積丹半島西岸の各調査地点における各種用ボーリングの追加火山灰分析、薄片観察の結果を総合しますと、
0:39:38	柱状図に、
0:39:40	軽石と記載されているものは、径が数mm程度の白色粒子として識別され、
0:39:47	当該粒子を対象として試料を採取したが、顕微鏡観察の結果、屈折率測定、主成分分析に供する火山ガラスは確認されません。
0:39:57	またこの白色粒子を対象とした薄片観察の結果、当該粒子はがん点または斜長石であると判断されます。
0:40:06	柱状図に、火山灰質等と記載されている堆積物を対象とした火山灰分析の結果、次の3ケースの状況が認められます。
0:40:16	一つ目に大屋火山灰に対する火山ガラスの粒子数が多い。
0:40:21	二つ目に、
0:40:22	火山ガラスの流出が少ない。
0:40:25	三つ目、火山ガラスがほとんど含まれない。
0:40:29	199ページをお願いします。
0:40:32	次に、照岸1-3ボーリング等、各地点の主要5位、これら以外の認められる軽石や、火山灰分析を実施していない火山灰質、
0:40:43	記載がなされている堆積物について、近接する主要ボーリングとの相双層序対比を実施し、これらの評価を行いました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:52	また 1 例として、照岸地点の検討内容について説明させていただきます。295 ページをお願いします。
0:41:06	295 ページから 303 ページには、減る岸地点における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討のまとめ示しております。
0:41:15	先ほどご説明させていただいた、
0:41:17	追加火山灰分析、薄片観察の結果に加え、令和 3 年 10 月、審査会合以前に実施した地質調査結果や、近接するボーリング等の対比を行い、本検討を実施しております。
0:41:29	検討につきましては、
0:41:31	各ボーリング調査地点が有しているデータ量等に応じて、(1)、このボーリング地点における火山灰分析、薄片観察結果等に基づく地層区分と、(2)、
0:41:42	近接ボーリングとの対比による規則の二つの手法を組み合わせ実施しました。
0:41:49	なお、従来、洞爺火山灰の降灰層準に相当すると評価した堆積物等について、
0:41:55	火山ガラスの流出、堆積構造の有無、移出物質の混在の有無等に着目し、純層二次堆積物等への再区分を実施してございます。
0:42:04	この細区分の考え方について説明をさせていただきます。
0:42:08	215 ページ。
0:42:10	お願いします。
0:42:16	215 ページには、降下火砕物の純層二次堆積物等への再区分の考え方を示しております。
0:42:24	ホームページ、下の図に示します通り、搭載区分の考え方を模式図で示しております。
0:42:32	細区分に当たりましては、降下火砕物の純層と二次堆積物を、次の通り定義いたしました。
0:42:40	デンソー。
0:42:41	ある火山噴火イベントから噴出した降下火砕物、温室物が直接降って形成されたそうであり、
0:42:48	構成物が主に本質物からなる。
0:42:52	二次堆積物、
0:42:53	一旦堆積した降下火砕物、温室物が再堆積して形成されたものであり、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:00	移動を示唆する堆積構造や、現地性の移出物質等の混在が認められるもの。
0:43:06	このうち、構成物が主に温室物から成るもの二次堆積物、
0:43:11	構成物中における温室物の占める割合が、純層二次堆積物Aと比較して低いもの、これを二次堆積物Bと呼称いたします。
0:43:23	すいません 296 ページをお願いします。
0:43:30	はい。296 ページ 202 は、手抜き支店における地質断面図を示しております。297 ページには、その断面のうち、A' 断面の、
0:43:42	各ボーリングのちょ、詳細柱状図を示しております。
0:43:47	197 ページに示す A' 断面のボーリングにおきましては、
0:43:52	基盤の上位に水色ハッチングで示す MMR 段丘堆積物が認められる箇所があり、その上位の黄色ハッチングの扇状地性及び崖錐堆積物中に、
0:44:04	赤色ハッチング等で示します。
0:44:06	洞爺火山灰の二次堆積物、A 及び B が認められます。
0:44:11	詳細柱状図の右側に赤実線や赤破線で示しているものにつきましては、火山灰質、軽石等と記載されているもの。
0:44:21	を示してございます。
0:44:23	またその右側に、
0:44:25	朱書きで示している四角や三角、ひし形といった記号につきましては、追加火山灰分析、薄片観察の結果を示しております。
0:44:35	なお、記号の右側に付記しているアルファベットは混在する。
0:44:40	火山ガラスを示しており、洞爺であれば T、
0:44:44	S P F エーワンであれば、S と記載してございます。
0:44:47	199 ページをお願いします。
0:44:52	299 ページには、297 ページに示した結果に加えまして、
0:44:57	分析等を実施していない。
0:45:00	軽石火山灰質等々、柱状図に記載がなされている堆積物について、近接するボーリングとの対比による評価結果を、
0:45:08	詳細柱状図右側、黒字の記号及びアルファベットで示しております。
0:45:13	本検討の結果ですが、軽石と柱状図に記載がなされている堆積物は、記号ひし形で示す通り、軽石ではないと判断されます。
0:45:23	また洞爺火山灰と評価した堆積物以外に評価を明確にしていなかった。
0:45:28	火山灰質等と柱状図に記載がなされている堆積物は、記号四角や三角で示す火山ガラスが混在、もしくはほとんど含まれない扇状地性及び

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:39	崖錐堆積物と評価しております。
0:45:42	また近接するボーリングとの対比により、洞爺火山灰の二次堆積物上位に認められる細粒な堆積物は、
0:45:50	洞爺火山灰に対比される火山ガラスが混在する扇状地性堆積物に区分され、
0:45:56	扇状地性及び
0:45:58	崖錐堆積物の上面付近には、S P F エーワンに対比される火山ガラスが混在する層準が存在するものと判断してございます。
0:46:07	また戻っていただいて 199 ページお願いします。
0:46:20	今 1 例として説明させていただいた照岸地点と同様に、積丹半島西岸の各地点において検討した結果ですが、ホームページの市小貫の
0:46:31	箱になります。
0:46:32	降下火砕物と評価していた堆積物は、以下の通り再区分されます。
0:46:38	洞爺火山灰の降灰層準と評価した堆積物、こちらにつきましては、洞爺火山灰の純層二次堆積物及び洞爺火山灰の
0:46:48	火山ガラスが混在する堆積物に細区分されます。
0:46:53	阿蘇 4 火山灰の降灰層準と評価した堆積物につきましては、阿蘇 4 の純層及び二次堆積物に細区分されます。
0:47:02	これら以外に、柱状図に、軽石火山灰質等と記載されている堆積物につきましては、追加火山灰分析、薄片観察、
0:47:11	近接する主要ボーリングとの対比等の結果から、次の 3 種類に区分されます。
0:47:17	一つ目に、火山ガラスが混在する扇状地性及び崖錐堆積物、
0:47:22	二つ目に火山ガラスがほとんど含まれない、扇状地性及び崖錐堆積物、三つ目に、
0:47:29	軽石を含まない火山ガラスを多く含む洞爺火山灰の純層または二次堆積物、
0:47:35	以上の結果、積丹半島西岸において、洞爺火砕流起源の軽石は認められず、主に火山砕屑物からなる堆積物は、洞爺火山灰、阿蘇 4 火山灰の純層、もしくはこれらの二次堆積物としてのみ認められます。
0:47:49	よって、
0:47:50	積丹半島西岸において戸谷火砕流堆積物は認められません。
0:47:55	539 ページお願いします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:09	139 ページから、7 章、洞爺火砕流が敷地に到達した可能性に関する検討について示しております。540 ページをお願いします。
0:48:21	540 ページから 547 ページには、7 章の検討の結果、まとめを示してございます。
0:48:27	548 ページからは、
0:48:29	本検討に用いた、文献調査や洞爺火砕流堆積物の分布状況把握された可能性に関する検討の各検討の詳細を示してございます。
0:48:40	本検討にあたってはまず、文献調査実施しておりまして、その結果、推定に基づくものではありませんが、洞爺火砕流は、共和町幌似付近を超えて岩内湾まで到達したとする文献も認められます。
0:48:53	このため、敷地近傍における洞爺火砕流堆積物の分布範囲について確認を実施するため、
0:49:00	幌似付近においてボーリング調査を実施してございます。
0:49:04	なおボーリング調査は、過年度までに実施済みであり、その結果は補足説明資料の 2 章に掲載してございます。
0:49:12	このボーリング調査を踏まえると、
0:49:16	野呂川合流付近、541 ページの A と C2 地点付近になりますけれども、こちらで洞爺火砕流堆積物の層厚が急減し、岩波部屋西部では確認されないことから、
0:49:29	幌似付近が洞爺火砕流の末端部である可能性が考えられます。
0:49:34	しかし、541 ページに示す堀株川付近の地点である B1、C2C3 地点には、
0:49:42	10 積層が認められる、認められます。
0:49:46	また、補足説明資料 6 章に示します通り、洞爺火砕流堆積物の火口からの距離と層厚の関係には、大局的な傾向としては、距離の増加に応じ、
0:49:56	層厚が小さくなる傾向が認められます。
0:50:00	このため、洞爺火砕流堆積物は堆積以降の表記に侵食された可能性も考えられます。
0:50:07	以上のことから、
0:50:09	洞爺火砕流堆積物が削剥された可能性について検討を実施いたしました。
0:50:15	この検討につきましては、541 ページの平面図に示す、共和町幌似付近から堀株川沿いに下流に向かう、
0:50:24	赤線で示している、いちいち断面、断面図と、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:28	言わない部屋西部において、堀株川に直交する青線で示す 2'断面の断面図を作成し、実施いたしました。
0:50:37	543 ページをお願いします。
0:50:41	543 ページには、チョウダンにはいちいち'断面図を、
0:50:46	下段には 2'断面図で示してございます。
0:50:50	堀株川付近に位置する地点である、いちいち'断面図の C3、一、二十 6 強は 7 地点、
0:50:57	2'断面図の、
0:50:59	1、26、今日 4、共和の 5 強 6 地点におきましては、
0:51:04	沖積層が認められますことから、洞爺火砕流堆積物は、
0:51:08	旧堀株川が加古櫛田低地に堆積し、以降の表記に削剥され、その後、沖積層が堆積した可能性、否定できません。
0:51:18	また、ぴあ村井地点におきましては、M I S5e の段丘堆積物である M 案段丘堆積物の上位に洞爺の純層及び二次堆積物に区分される。
0:51:28	火山灰質シルト層が認められるか。
0:51:31	当該層の表面基底面、または当該層中に侵食面は認められないことから、
0:51:38	洞爺火砕流は到達していないものと判断されます。
0:51:43	また、一、二十 6 強 3 地点におきましては、
0:51:46	洞爺火砕流堆積物の下位の層準である服部層の上限標高が、ぴあ村井地点に認められる火山灰質左室シルト層の分布標高よりも高標高に位置することから、
0:51:58	洞爺火砕流は到達していないものと判断されます。
0:52:02	544 ページをお願いいたします。
0:52:08	以上の検討を踏まえますと、洞爺火砕流堆積物は堆積後に削剥された可能性を否定できない調査箇所が、堀株川沿いの低地に認められ、
0:52:18	当該調査箇所の延長方向に敷地が位置してございます。
0:52:22	ただし、敷地の山側については、次の状況であることから、洞爺火砕流は到達していないと判断されます。
0:52:31	敷地には、梨野舞納地点と同様に、545 ページの紫の凡例で示します M m 案段丘堆積物、M 段丘堆積物も認められ、
0:52:43	その上位の陸上堆積物の上面、基底面、または当該堆積物中には、洞爺火砕流の到達を示唆する侵食面は認められません。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:53	また敷地は、神恵内層を基盤とし、上位にはM I S 7 か、或いはそれよりも古い改正堆積物が概ね認められ、その上限標高は 40 メートルを超えてございます。
0:53:06	一方、敷地の海側につきましては、
0:53:10	12 号の建設前、標高 0 メートル付近波食棚が分布する状況であったことから、
0:53:17	洞爺火砕流紛失時の地形及び地質状況は不明であり、
0:53:22	堀株川沿いの低地に流下した洞爺火砕流が到達した可能性について検討することができません。
0:53:29	よって、洞爺火砕流が堀株川沿いの低調流下し、現在の岩内湾側を、
0:53:35	経由して、敷地のうち、MM案段丘より、標高分である敷地の海側に到達した可能性を否定できません。
0:53:45	また、12 号炉調査時に実施した敷地の F - 1 断層開削調査箇所のスケッチには、M I S 7 か、或いはそれより古い改正堆積物の上位育成、
0:53:56	上位の陸成層中に火山灰火山灰質シルトと記載されている堆積物が認められますが、
0:54:04	F 1 開削調査箇所は、MMR 暖気より高標高部に位置することから、洞爺火砕流に対比されるものではないと判断しております。
0:54:13	なお、これまで実施した敷地及び敷地近傍の地質調査結果や、今回追加で実施した積丹半島西岸の地質調査結果から、
0:54:23	洞爺 S P F エーワン等の火山ガラスが混在する堆積物、もしくは洞爺阿蘇 4 の純層または二次堆積物であると考えである可能性が考えられます。
0:54:36	すいません 484 ページをね、戻っていただいて、お願いします。
0:54:45	484 ページには、5 章の敷地における調査結果のまとめ示してございます。
0:54:51	先ほどご説明させていただいた、F - 1 断層開削調査箇所のスケッチに記載されている火山灰火山灰質シルトについて検討を実施した旨、このホームページの黄色箱書きの 3 マル目と 4 枚目に記載してございます。
0:55:05	このうち 4 マル目の文末に、検討の詳細を参照するページ記載する予定でしたが、ここに D 0 から P 0 参照と誤った記載となってございました。
0:55:17	正しくは 522 ページから 525 ページ参照となります。次回までに修正させていただきます。申し訳ございません。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:26	今回の説明は以上となります。
0:55:36	規制庁タニで説明ありがとうございました。
0:55:41	ちょっと説明を聞いて思ったのが、
0:55:46	かなり本編資料も発しよってる感じが。
0:55:53	しました何か今一例でこういうところをこう評価して1例をご説明しますってところが、1例としてこうなんでそこを説明したら何か、
0:56:08	全体の評価のロジックがつん説明できているのかっていうのがちょっといまいわからなくて、
0:56:17	それでも私説明と認めなかったのは、ちょっと今回のヒアリングの中で一通り1回聞いてみようと思って、
0:56:26	聞いてみたんですけれども、
0:56:29	やっぱりですね、
0:56:31	多分こういった説明、1時間ぐらいで説明しようとか思うと、こういった説明になってしまうんだろうなという気は一方でしてしまして要するになんか、
0:56:41	結構
0:56:44	1回のヒアリングで扱うには、資料が多過ぎるんじゃないかなっていうのが来私今聞いてて感じたところです。なので、
0:56:56	ちょっとこちらでも考えますけど、会合デーコー本当にこれ一気にこう説明してもらおうのいいのか。
0:57:05	ちゃんと結構その補足資料の内容だけでも、
0:57:09	何か相当な説明のボリュームもあったように思いますので、何かこう、中身をちょっと分ける必要があるのかもしれないっていうふうにと、まずは説明聞いてて思いました。
0:57:21	で、
0:57:22	何かやっぱり、本当にもう、
0:57:25	新しくこう取り入れたところとかが、どこまでちゃんと説明されているのか多分、北海道電力としては、前回、1回説明したこととかも、何か考えてそういう説明になったのかもしれないんですけれども。
0:57:43	なかなかですね今の説明では伝わらない。
0:57:47	いう状況ですんで、そこで、
0:57:50	ちょっと私お願いしたいのが、
0:57:56	資料としての説明はですね、実は我々のメンバーも、前回10月の会合だとかから、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:06	大分人も入れ替わっているようなところもありますそれはこっちの都合ではあるんですけども、大分時間が空いてるっていうことをちょっと念頭に置いて、1、
0:58:17	ここ、今度のヒアリングでも一通りなんかロジックがわかるような説明をお願いしたいと。
0:58:23	というのが一つ目のお願い。
0:58:26	だから、次回のヒアリングは、ちょっと中身を絞ってやるの方がいいのかもしれないと思っています。
0:58:36	あとはですね。
0:58:38	前回の会合から今回の紙、次の会合までに、
0:58:43	どこがどう変わっているのか、おそらくすすごく文献だとかもふやして補強されている点。
0:58:53	が多くあるんだと思いますんで、非嘘それに伴う評価の根拠が変わっているようなもの。
0:59:01	或いは評価の方法も変わっているようなもの、こういったものがですね、何かこう概要みたいなところに、
0:59:09	わかりやすく、体裁をお任せしますけど、
0:59:15	何かつけてもらった方が、
0:59:19	我々としては論点というかポイントを絞ってもう見れるし、どこが大事かっていうのがわかりやすくなるのかなと思うんですけども。
0:59:31	何かその辺の工夫、何か概要みたいなものをつけることはされないですか。
0:59:44	北海道電力の渡部です。
0:59:47	昨年10月会合からの変更点という形で、多分細かいところを書き出したら切りがないので、主要なものっていうことになってくるんだと思うんですけども、
0:59:59	例えば網羅的な文献調査というものを実施して、
1:00:04	冒頭の2-1章にそれを入れましたですとか、前回までは、巨大噴火の可能性評価というものは主に地物、そのうち地震波速度構造によるという形だったんですけども、
1:00:18	文献調査、活動履歴、地物についてはMTですとか、
1:00:23	例えば重力異常こういったものを踏まえて、総合的に、現在有し得る知見に基づいて評価する形としたとかそのような形で、冒頭に、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:33	差分を示すという形はできるかと思ってございますがそのようなイメージでよろしいでしょうか。
1:00:41	井谷です。根拠、今、今の渡部さんの説明では根拠も含めて変わったところはちょっと
1:00:49	説明するっていうようなポートかと思いますので、1回そういったのを見て、
1:00:54	見させて欲しいなって思ってます。
1:00:57	そこそこにすごく手間をかける必要もないのかもしれないですけどあくまで説明性の観点でお願いします。
1:01:04	あとは
1:01:06	何か影響をおよぼし得る火山の抽出におけるもう判断根拠こういったことも何か変わっているように私はもう見えるので、その辺もこう書く。
1:01:17	各校各省で、どう変わってるのかっていうのがわかりやすい
1:01:22	表にさせていただいて、
1:01:27	飄々じゃないですね表じゃなくて説明をしていただけたらと思いますけど、その辺いいですね後は次のヒアリングでもうちょっと、ちょっと全体を通して丁寧をお願いしたいっていうことについてもいいですよ
1:01:40	ワタナベですはい承知いたしました等影響をおよぼし得る火山の抽出は、今年の3月に谷さんからと言われてたのか例をカイダで使ってるけどこれって、
1:01:51	他サイトでやってるのとかあくまで参考だよなって話でそれを落としたりしている部分もあるのでそれもわかるような形で、差分を示したいと思います。
1:02:01	はい、以上となります。
1:02:53	あっタニです。
1:02:55	ちょっと細かい話も入ってくるかもしれませんが、中身について確認を。
1:03:02	していきたいと思います。
1:03:06	まずですね、さっき渡部さんチラッと仰いましたけど30ページ以降、
1:03:13	前回
1:03:16	当庫火山の平均活動期間とかそういったことをこう書かれていたと思う、記憶してるんですけど。
1:03:24	この辺を

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:27	変えてるん理由というのと、
1:03:32	当行火山の平均活動期間とかそういった知見は、もう一切説明を
1:03:40	強いししないことにしたのかそれでもサブでも残しているのかとか、その辺ちょっと考えを確認させてください。
1:03:59	渡部です。はい。本編資料の 29 ページに抽出フローがあって、
1:04:06	元来、金をカイダの寿命を考慮しますよっていう記載があったんですけども、他サイトさん先行他サイトさんも横並びで見たときに、そのような判断根拠が基本ないということと、
1:04:18	今のガイド上、やはり求められてるのは、最大休止期間という考え方から見ていきましょうねっていうのが主題となっていると思いますので、金尾カイダさんというものはこのメインのフローからは消してごさいます。
1:04:31	ただしじゃあすべて消したのかということだと、今年の 3 月のところでも少し話したんですけど、参考としては残しますというお話をしてございまして、
1:04:41	補足説明資料の例えば、
1:04:44	22 ページの方に、
1:04:46	お足別のダイアグラム載せてるんですけども、
1:04:56	はい、22 ページの芦別の左側の評価というところで、評価については、
1:05:04	全活動期間より最新活動年代からの経過期間が長いことから将来の活動可能性が十分小さいと評価されるっていうのが先ほどの抽出フローに書かれていた基本的な評価の仕方。
1:05:15	そのあとになお書きで、なお、金岡井田編によれば、日本のような島弧火山は、数十万年程度が平均的な活動期間と、
1:05:26	考えてよいとされていると。
1:05:29	書いてございまして、数十万年程度が重要でしょう。それに対して、今は市別の活動年代というのが、約 11090 万年前とされているので、
1:05:40	将来の活動可能性がないとしていることについては、寿命を考えても妥当ではなかろうかといったところをなお書きで示したという形にございまして。以上です。
1:05:50	規制庁タニ再確認できました。
1:05:53	これを根拠としているものについては全部補足資料見たら、これも根拠に入れてるってことがわかるっていうことですね。わかりました。
1:06:06	それで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:10	甲斐かいいか、根拠としてこうちょっと入れ替わってて私もすごく1個1個細かいところ見てるわけじゃないんですけれども、
1:06:18	今の何か理由として、
1:06:21	基本的には救済最大休止期間期間と、経過期間の関係、あとは
1:06:30	全活動期間と、経過期間の関係で、
1:06:35	ここでオミットする云々については、全部これで説明してるっていうことです。違うかその他理由によるっていうのが二つあって、
1:06:45	その他は、
1:06:47	基本、この
1:06:48	二つの理由で、
1:06:52	外してるっていうことでいいですかね。
1:06:56	ワタナベです。はい。その通りです。
1:06:59	これってね、両方向該当になるのとかそういうそういったことは特に、そういった火山はなくて、いずれもどちらかそのAっていう理由Bっていうどちらかの理由しか、
1:07:13	基本的にはないってことでいいですかね。
1:07:20	ワタナベですはい。重複するというものではなくて、どちらかという形になってきてございます。
1:07:27	はい、わかりました。
1:07:28	あとは最大休止期間と全活動期間っていうのは、
1:07:33	全部、補足資料見たら、
1:07:38	全部認識できるような資料になっているっていうことなんですかね何か。
1:07:43	一部ちょっと。
1:07:44	あれこれの前活動期間ってどうなんだろうって思った資料とかもあったんですけど。
1:07:50	これを全部、
1:07:52	補足説明見たらわかるんですか。
1:07:56	渡部です。はい。これについては、他サイトさんに少し倣ってる部分もあるんですけどまず303132というところに、
1:08:06	35火山の何ですか年表のような、
1:08:10	これを見れば根拠がわかるよという、簡単なまとめの表をつけてございまして、さらにそこからエビデンスを遡りたいということになると、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:20	補足説明資料の1章にダイアグラムをつけているので、それまで見てもらえばすべてのエビデンスがそろっているというような枠組みにさせていただきます。
1:08:32	はい、わかりました。多分これ、
1:08:34	私がちょっと理解が追いついてないだけなんだと思うんですけど、例えばね補足資料の33ページの、
1:08:46	勝間大和買って、
1:08:48	安保管階段ダイアグラムを見ているんですけど、
1:08:52	これ全活動期間って何か。
1:08:56	どうどう見たらいいんですかとかそういうところの、
1:09:00	かつ活動年代ってこの表見ろってことですかね70から20万年。
1:09:08	活動年代70万から20万程度が、これが例えば、ニシキほか編等のデータベースに基づいて書いてきてるんですけども、
1:09:17	その根拠となっているデータというのが左下の勝真山活動履歴というところで、各文献で年代値をとっていて、いつぐらいの時代に、
1:09:29	例えば勝真山溶岩が噴出しましたよと、これが多分カタログに書かれている年代の根拠になってきてるんですけども、これを右下のダイアグラムの形に整理したときに、
1:09:40	丸で書いてあるのが、噴火のイベントがあった時期年代を示してございまして、
1:09:46	ここについて、勝前山については噴火イベントが複数ございますので、矢印で示しているイベント間の最大のもの、最大休止期間40万年としているのが、
1:09:57	最大の休止企画、これに対して、最新活動年代からの計画期間はどれぐらい経っているのかといった形を見せているものになっております。
1:10:18	規制庁のニシキです。今のところでちょっとお考えだけを確認しておきたいんですけども、例えばこの勝真山っていうのはすべて勝前山様坂っていう名前。
1:10:29	もの、ユニットですね一つの
1:10:32	それに対して年代値が三つ図られていて、それぞれが70、約70万30万20万という値が出ています。そういったものの年代評価、
1:10:44	とか、本当はちゃんとした上で例えばこれ、浅間山溶岩とかユニット、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:49	要は何て言いますか、この中で例えばさ、本当に 30 から 70 の間に活動があったのかなかったって、これ一つの洋画ユニットでこんだけばらつい年齢が出てるということは、
1:11:01	旧式とかそういったものがあるのかないのかっていうのはさらに調べない限りは本来、
1:11:06	最大休止期間がどうかっていうのはわからないような気が、パッと見たかにしちゃうんですけども、いわゆるその層序がわかっているところでユニットの上下がオスの年齢が抑えられているか。
1:11:17	だからこそ、活動期間がこうで、それと次のユニットの間に年齢の差があればか最大休止期間がわかるっていうのがそもそもガイドとかでも考えているような、
1:11:28	最大休止期間という意味になるかと思うんですけども、ちょっと御御社とか、他サイトもそういったような書き方をしているところあるのかもしれないんですけども、例えばこの勝前までを一つなんか全部同じ名前で書いて年収がばらついているのにその中で 40 万、
1:11:42	活動休止期があるというふうに、このダイアグラムで整理する、した理由と申しますか根拠と申しますかそこでどういった形でこう、
1:11:52	最大値試験を設けることができるかと判断したのかの、ちょっとお考えをお聞かせいただきたいんですけども。
1:12:13	渡辺です。ご指摘の通り、このダイアグラム整理していて、難しいと考えている部分はまさにそこではあると思ってございまして、
1:12:23	今有している文献の中で、確かにこれ勝真山溶岩というものの中で年代にばらつきが出ていると。
1:12:30	じゃあそれらはうと、個別のイベントであるのか。
1:12:34	本当に時代の異なる別のイベントであるのかというところまで考えていくと、なかなか答えが出せないっていう山体も結構あると思ってます。
1:12:44	で、今ある情報の中で、ガイドの考えに基づく最大休止期間っていうのを、
1:12:50	当てはめていったときに、ちょっと無理やりなところも実際はあるんだと私も思っているんですけども有しているデータの中で、最大休止期間っていうものを、
1:13:01	極力多分最大休止期間が短くなる方が、
1:13:06	最新活動からの経過期間との比較をしたときに、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:09	将来の活動可能性が否定できない火山として選ばれてくる可能性が高くなる、保守的になるとは思っているんですけども、従ってなるべく今あるデータで妥当性がどこまであるかわからないんですけども、
1:13:22	細かくイベントを刻んでいって最大休止期間を出していく方が、最終的な最新活動年代の経過期間等の対応をしたときに、より保守的に将来の活動可能性を評価できるんじゃない。
1:13:34	ないかと思っております、このような考えに至らない部分は多分あるのは承知してるんですけども、
1:13:40	今あるデータに基づいて、極力細分化しながら最大休止期間を出していったという考えでございます。以上です。
1:13:56	はい規制庁ニシキです。そうちょっと、
1:14:00	なかなか難しいなというお考えが認識されてるってことは、私が思うの、疑問点のところも認識された上でまとめられているということとあと、
1:14:13	あります。
1:14:14	ちょっとその保守的なゆめようというか、お考えで整理されてるってことについては確認できました。
1:14:29	規制庁谷です。ちょっと今私があるですね私が最初質問した件については勝真山を例に挙げたのがちょっと何か、ちょっと私も勘違いがあって、良くなかったのかなって思っ。天野。
1:14:43	活動年代活動期間って、全活動期間っていうのは、オミットしている部分に関しては、ここで、
1:14:54	およぼし得る火山の抽出で外してる分についてはどうやろ。
1:15:00	やっぱりですね、ちゃんと補足で、
1:15:03	書かれてるってことかと、今、改めてずっと見てて思いました。
1:15:10	はい。この辺は、階段。
1:15:12	この辺はあります。
1:15:38	規制庁のニシキです。
1:15:40	同じような活動評価のところちょっと、
1:15:43	確認させていただきたいところで、
1:15:46	例えば本編資料の 28 ページ。
1:15:51	のところに見ていますと、今回のこの活動のが、
1:15:57	完新世の活動があったものとか、否定できない火山でかつ、計 13 火山をピックアップされてるんですけども、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:16:05	ちょっと落とされた方のところでこれ前回からの説明でも示されているんですけども、例えば札幌だけとかそんな沼だけとかいざりだけっていいですかこの辺りについては、
1:16:17	認識のデータベースとかもともとの産総研のデータベースには第4紀火山としてピックアップされたんですけども新しい年代値が獲られ、
1:16:29	第4紀火山じゃなくて
1:16:32	何か鮮新世か何だっということが分かった中で御社としては、
1:16:37	変わらず、第4紀火山として評価しますよというふうに米の米の2のところ、次んところ書かれているんですけども、
1:16:48	一方なんか、C-32の濁りが風であって今回これし、新しい文献を終えられていて補足の36ページですか。
1:16:58	そこんところで濁りがカルデラの話が、
1:17:04	負債詳細が、こちらの方に当分飛んで見る見ているときに、
1:17:09	今回新しい新知見で今年ですよ、兼田長谷川2022というのが出て、新知見を取り入れました。
1:17:19	みましたってことになって、この辺の記載ぶりのところでなかなかちょっと微妙な記載ぶりがあるって、
1:17:27	仮定に基づいてはいるんですけども、何か完新世まで活動が多いような可能性があるというふうに、
1:17:36	書かれてるんですが、ここは今回完新世の活動とは特に入れない。
1:17:43	よかったという理由はしかし、現状云々の予知連で定義されていないからというところで、今回はとりあえず、
1:17:54	以前、従前の評価のままにしているということの理解でよろしいですか。
1:18:01	渡部です。はい。その通りでございまして今年の3月に、兼田長谷川2022というものが出て、濁り側の8番、パイルプラスチックフローについては、
1:18:13	完新世にかかってくる可能性というのを示唆しているという状況になります。
1:18:18	その際に、完新世に活動があった火山かどうかというところの判断研究に関係してくるというものではございますけども、まずまだ可能性の段階だとされていることと、
1:18:30	今現況ガイド上、完新世に活動を行った火山というものが、
1:18:37	気象庁の噴火予知連で、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:39	定義しているもの、これに基づくよというような基本的な記載があるという二つをかんがみて、従来の評価のままに据え置いているというふう に考えてございます。以上です。
1:18:54	規制庁ニシキです。
1:18:56	お考えについてわかりました基本的にはそのお墨付きが空いているもの、完新世かどうかとか、いわゆる活火山かどうかというところの判断があつてから、
1:19:07	ていうことで少しあるということともう一つはそもそもなんですか。
1:19:13	噴出物そのもので、
1:19:16	今決まってるようなもんじゃなくてかなり可能性を指摘してるようなものだからという、2点が主な理由だということでは確認できました。
1:19:28	ちょっと続いて、詳細ページの最初の方でちょっと誤記っていうかちょっと気づいたところを先にちょっと申しておくと、4ページ目のところで、
1:19:38	ですね。
1:19:40	4ページ目のNo.さーんの、昆指摘事項での回答方針のところ、甲斐。
1:19:47	野中の回答内容本編資料P29等って書いてるんですけど、これ29ページ。
1:19:54	いや何か書いてないような気がして、何か31ページとか7わかるんですけどと思ってんですがこの辺ちょっと誤記なのかもしれないのでちょっと確認をしておいてください。
1:20:06	一旦、以上です。
1:20:08	渡部です。申し訳ございません。つれてございます。修正させていただきます。以上です。
1:20:37	規制庁ニシキです。ちょっとですね、文言の書き方でちょっとわかりにくいかなと思うのでちょっと検討いただきたいのがありまして、40ページをちょっとお願いしたいんですけども。
1:20:50	40ページのところ40ページ以外にも書かれてはするんですが、
1:20:56	充実結果のところ、噴出物ダイセキが20立方広めて異常とされ火砕流堆積物が広範囲に分布することから巨大噴火に該当するというのか、書きぶりがあつて上の、
1:21:09	青の箱書きなんか等に書かれているんですけども、何か何か書き方、次、よく読めばそうだとは思うんですけど、何かパッと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:21	見たときに、例えばここの表の中でC-27の狩場山とかだと、21.4って書いてあって、
1:21:29	巨大噴火に該当して、これって噴出物堆積20以上あるんじゃないのとか何か一瞬見えちゃってただ、要は火災がないからってということにはなるんですけども、何かこの辺って何か、
1:21:41	もともとこうこうこういう言い方をしている基準のところって外上の箱書きの2二つ目の丸のところガイドを踏まえ、
1:21:50	22報であり云々と書いてるとガイドってこれってまずあったんだっけな。
1:21:55	だから、こういう書き方、御社で20という数字を一つの閾値にしたってことは理解しているんですけども。
1:22:02	ワイドって、何かそもそも、
1:22:04	噴出物、
1:22:06	量は、後々に書いてた気がするんですけど、要は、火災、広範囲に火砕流が広がるようなものですが、
1:22:14	友田早田兄弟は、今ちょっと解説中というガイドを見ると、ここの記載って地下のマグマが一気に噴出し、大量の火災で、
1:22:25	となるような噴火であるのが巨大噴火の定義で、その希望として噴出量の
1:22:30	噴出物の量が数十。
1:22:33	一步広めて超えるようなものを言うっていうんで何かここの何か上の分の条件をそのまま手術計画と何か一緒に何かよくわかんなくなっちゃったんで、その辺ちょっと何か。
1:22:44	書き方は工夫できないかなと思ったんですけどもその辺ちょっと、いかがですか。誤解を受けないような修正という意味でのちょっと確認なんですけど。
1:23:42	北海道電力の箕輪です。今、ニシキニシキのおっしゃる通り、ガイド、そういった記載になってますので、
1:23:52	この
1:23:52	まず、
1:23:54	広範囲に広がる火砕流があると。
1:23:56	そのあと、量が来るという形で主事がわかるように、順番。
1:24:01	記載を修正させていただきます。
1:24:03	以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:06	規制庁一色です。多分、あくまでも巨大噴火というのは火砕流、
1:24:12	広範囲っていうそこが大きいところだと思うんでそっちが頭にきてる方が誤解が少ないかと思いますんでちょっと確証結構ありそうなのでちょっと、
1:24:22	時間かかるかもしれませんが丁寧に確認して修正の方いただければと思います。
1:24:28	ひとまず以上です。
1:24:35	あと、規制庁タニです。これ 40 ページで、噴出物堆積が 20 立方キロって書いてるんだけど、
1:24:45	これって北海道電力は DR のことを言ってるんですか。20、20 立方ってというのは、
1:24:55	ワタナベです。はい。当社の定義としては DR e として 20 立方キロ以上というふうに考えてございます。
1:25:05	No.7 の率確認できましたと。
1:25:09	これガイドにおいては数十立法ってこっちはどっちだと思ってるんですかここをガイドにおける数十立方ってというのが北海道電力の認識としてはこれ DR いいだと思ってるってことですか。
1:25:44	ワタナベそのガイドに書かれているものが、DR いなのか見かけなのかっていうところは、ちょっとうかがい知ることはできなくてどちらかっていうものは持ってないんですけども。
1:25:54	当社として今、10、20 立方キロ DR 位としてそれとしたときに、仮にです、見かけですよという考えになると何が変わってくるかというところていくと、
1:26:05	例えばこのリストでいくところの仮場とかっていうものはこれ一、個別の紛失イベントの量がわからないので総量という形で、1 個 1 個はもつと値が下がるんですけども、
1:26:17	単独で見たときに、見かけで量が増えそうなのってなってくると何かっていう観点でいくとニセコ雷電の第二期噴出物 15.9 というものがござい
1:26:27	これは文献をたどっていくと、火砕岩と溶岩、
1:26:32	というような形になっていて、基本に施工というのが溶岩流主体となります。火砕岩のウエートがどれぐらいなのかってのはわからないんですけども、溶岩流主体ということを見ると、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:44	仮にこれが見かけだとしても、そこまで大きくならないんじゃないかということ、ニセコ雷電火山群は一般的に、過去に巨大噴火をしたといったことが知られているような火山ではないので、
1:26:56	どちらDRで見ても見かけで見ても、評価対象とするべきものは大きく変わらないんじゃないかこのように考えてございます。以上です。
1:27:10	規制庁のニシキです。
1:27:12	確かにガイドのところだと数字。
1:27:15	立方キロメートルっていう書き方しているんですけどもあんまり何て言いますかね。
1:27:22	火砕流とカーの時に、わざわざ、まずはDR eにまで換算して、
1:27:30	るっていうのは何、少ないってかDR1っていうのが何、ある意味、馴染みが、
1:27:37	薄いところがあるので、こういう記載のところは基本はそのいわゆる見かけ体積ですねそういったもので、
1:27:46	書いてるような、
1:27:48	ことなのかなと。
1:27:49	一応、
1:27:51	そういう気はしているところですし、カイダカイダ本人がそういうふうに書いてるんでそういうイメージで書いていると、明確に書いてないのは、普通、通常はDr伊井っていいですか溶岩監査した時って、ご退席になりますので、
1:28:07	きちんとマグマ体積ですとか、
1:28:10	で書いていて、普通の三塚井関で書くときには、大体、通常はもう見かけ堆積ですね、そういったような、いわゆる堆積物って書いてるわけですからわざわざ堆積物の堆積って書くわけなので、ササキ本見かけ堆積のことをさ、
1:28:25	Dr飯野するときには、普通はマグマ体積とか、
1:28:30	羊糞換算した。
1:28:32	体積が5DREとかそういった表記にするのが普通だ、通常そういうことが多いと思いますので、そういった意味でいくとちょっと御社のところちょっとこの後私も
1:28:43	よくかなと思ったところあったんですけども、
1:28:45	噴出物堆積括弧DREって書いてるものと、噴出物堆積というそのままのものが混在してるところがあって、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:53	それで結構。
1:28:54	マンドまで言うと、
1:28:56	5間菅さん。
1:28:58	田中マグマ体積と、
1:29:01	いわゆる見かけ堆積でそれで
1:29:03	大きく統計でも倍半分ぐらいになってきたりするのでその辺の数値がち よっと、
1:29:09	混在してるとわかりづらさんを出てくるところもあるので、その辺まだ きちんと書き分けていただいた方がいいのかなという、資料の誤解が少 なくなるのかなと。
1:29:20	いうところがあります。
1:29:22	ので、
1:29:25	それで、それでちょっとこの40ページのところに戻ったときにですね
1:29:30	ここでちょっと後で指標かなと思ったところがあって、そのDREのと ころで勝間とかその辺のところ、赤津町が失礼な狩場山とか21.で書い てるん羊糞とかありますけどそれってどうやって、
1:29:42	磨けダイセキからりえこ技TRって書いてるのでリアルに直したその換 算係数っていう、何か参照してるんですかってこと伺っとうかなと思っ たんですけどもあんまりその辺の比率、
1:29:53	何か数字なんかそのまま持ってきてるような話があったんだけどち よっとその辺の事実確認をさせていただいていいですか。
1:30:06	渡辺です。はい。当社の考え方として、今特に階段ダイヤグラムで、火 山山体によっては、Dr井手統一されてるものを、
1:30:18	見かけで統一されてるものって分かれてございます。
1:30:21	ちょっと正しいとかわからないんですけど、なるべく考え方として、
1:30:28	元文献をたどったときに、数値が追える方が、極力いいんじゃないかっ て実は思いがありまして、変に換算しちゃうとどこに載ってるのって いうことを困ってしまうので、
1:30:41	3体ごとに、例えば3体によっては山本さんが過去に整理してくださ った、
1:30:46	ダイヤグラムのものではすべてDRに統一されているのでそれはそのま ま使うと、3体によっては、そういったものがなくて文献では見かけ堆 積で基本書かれているのであれば、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:57	そのまま持ってきた方が、トレーサビリティはいいんじゃないかということでそういう考えでしてございました。
1:31:03	ちなみに40ページの方の噴出物堆積というものについては、極力文献そのまま持ってきてこれDR換算したものをそのまま載せてます。
1:31:14	で異なってくるのが※2をつけてるものになってございまして、仮場ですとか、尻別岳というものは、
1:31:22	本当文献においては、こちら、
1:31:27	見かけの記載になってございましたので、ここはYamamoto2014に、それぞれの噴出物に関する換算の式というのが載っているので、それに基づき、当社として、
1:31:38	換算した値というのを載せているのは※2をつけてるものになってございます。
1:31:44	思想としては、極力変えなりや変に館山寺者でしないように、
1:31:50	統一できるものはしていきたいというところだったんですけど、もしもそれがやっぱり、
1:31:55	ダイアグラムを見たときに、全部DRになってないとそもそもボリューム感として見づらいよってことであれば、やはり換算してということが、
1:32:04	PRすべきかなと考えてございます。以上です。
1:32:09	規制庁の伊敷です。お考えは、私が思ってる気なんだ、懸念事項見てもやはりちゃんと田辺さんの方で持たれていることが確認できました。
1:32:22	ちょっとそこでやっぱり、例えばそうは言ってもですね資料を見た人が、その辺のところまでわかるかっていうのがあって、
1:32:29	パッとぱっと見ていくと、DR塗布書いてるもの書いてないものが階段があって、その思想は、やっぱりトレーサビリティ考えた時に、元文献にどう書いてるかっていうそ、一番
1:32:43	よくまとまっているものをベースに作られるところがいいと思うんですけども、
1:32:48	やはりその辺のが、
1:32:50	パッと見たときにその混乱しちゃう人が出て来きかねないので、その辺何かうまく表現できないかなあっていうのがあってちょっとこの辺は工夫され、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:01	保管された方がいいのかなあとか思ったりもしてったりします。例えばこれは私の勝手な個人的なイメージですと、例えばこの40ページのところだと、
1:33:15	噴出物堆積というのが3、
1:33:18	右、左から3番目のところであって、
1:33:21	DRって書いてますけど、例えばこの、
1:33:24	一番上の支笏のやつは40から48っていうのはこれ、山本さんがリアリティー換算してるやつなので、この数値の後にdREとつけといた方が何かわかりやすいのかなと思ったり。
1:33:36	例えばこのCの17のところでもこのDR体積って書いてる中に、VEI7クラスと書いてると何かこの辺でようわからん、Cとなってくる分、いわゆるVEIの考えというのは、
1:33:48	見かけ退席ですから、その辺のが、何かちょっと混在してるかもあったりするんで、TRAだけなんか特別ですよっていうふうに見せておいた方が、
1:33:58	いろいろ誤解なく、ここの入口のところで何かつまずいちゃうとちょっとあれなので
1:34:05	種そういう修正もありなのかなと思うんですがその辺ちょっと
1:34:11	ご検討いただければいいのかなと思っております。以上です。
1:34:49	規制庁谷井です。
1:34:51	いや、私もですねちょっとよくわかっていないところもちょっとあって、
1:34:59	わかんなかったっていうところさっきやりとりしてみんなの聞いて、
1:35:05	ちょっとずつわかってきてるところ、10年例えば補足の17ページとかかって、
1:35:12	表ではDRになってる。
1:35:17	DREでこれ数値がずっと並んでますよね。
1:35:21	このグラフはDR1ってついていないんですけども、
1:35:26	これグラフもDr伊井なんですよ。
1:35:31	はい、そうです。グラフもDr伊井です。全部そういう作りですけど表の中でDRを使えばこのグラフのDRで書いてますし、見かけであればそのまま見かけで書いてるっていうものになります。そうなんすよねそれが、例えばこのページだけで言うと、そういうことかなと思わせておきながら、次のページとかと比べ

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:51	たらこのグラフだけを例えば抜き出したら、何のことかよくわかんなくなるっていうようなところがあって、
1:35:58	各各々の
1:36:01	噴出物堆積っていうのを二つ使うんだったらどうぞ。
1:36:06	リアルにもあれば、
1:36:10	見かけの書いているところも両方あるんだたらもう毎回毎回ちょっとその辺は入れていただけたらなと思うのはそれ多分、今野ニシキさんの、
1:36:19	確認とダブってしまうところかと思しますのでお願いします。
1:36:30	あとは、結局この本店の40ページっていうのは、今ニシキさんからありましたけどこのガイドっていうのは見かけなんだよと。
1:36:39	北海道電力としてそれが、それを踏まえて、
1:36:44	踏まえてDREで20立法っていう話を、それを踏まえてもDRで20立法なのか。
1:36:53	とかちょっとその辺を
1:36:56	あと、そうですね広範囲に分布するっていう火砕流の話との関係だとかもうちょっと整理していただいて、
1:37:05	もう1点はさっき、いやいやこれリアルじゃなくて見かけにしても、
1:37:11	そんな増えないんですよとか、そういう考えがあるんだたらですね、この表とところ文章が対応するような形で、
1:37:20	説明していただけたらと思しますので、多分今、今の段階でこの表の評価が2行、我々もこれがおかしいとか言ってるつもりはないんですけど、
1:37:32	ちょっとよくわからないなっていうようなところがあって確認しているところなんで、ちょっとこの辺はよろしくお願いします。
1:37:43	渡部です。はい。
1:37:45	40ページのdREでなのか見かけなのかっていうのは、先ほどニシキさんがお話されてたように、基本は見かけのつもりで書いているんだっておっしゃっていらっしゃったので、そこに対してDRで見せるっていうのは、
1:38:00	馴染まないんだろうなと今思っていますので、ここについては、見かけという考え方をに入れて、そのときに、ニセコ雷電とかそういったものがどう扱われるんだっていうのが、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:12	明確になるようにしたいなと思ってます。とか最尤の広がりとその量というのは、主従が逆になっているのでそれを適正化したいと考えております。
1:38:23	それ等、ダイアグラムのほうで、
1:38:26	P r eで示すのか、見かけで示すのかっていう話があって、基本我々も、他サイトさん見ると、既DRに統一が望ましい姿だとは思ってございますその一方で、
1:38:39	トレーサビリティがとれないなっていうふうに、という感想を抱いてのも事実としてございますので、
1:38:45	DRで統一しながら、そのトレーサビリティが取れるような方法何かないかっていうところをちょっと考えてみたいと思います。以上です。
1:38:54	規制庁谷ですグループをねDRに統一してくださいっていうつもりはないんです。PREなのかDRじゃないのかをはっきりとグラフごとにちゃんと説明してくださいっていうような、噴出物。
1:39:07	堆積っていう言葉が出るときには、必ず何かつけてもらえたらDRのときはつけるとか、その辺のルールをちゃんと持っていたらいいかなというふうには、
1:39:18	今のところ思ってます。
1:39:21	渡部です。わかりましたありがとうございます。そのような形で、どっちかっていうのがまず明確になるようにすることと、
1:39:29	本編の40ページでは見かけ換算っていう作業が入ってくるので、
1:39:33	どうやって換算してるのか、もともとの数字は何だったのかっていうトレーサビリティが取れるように配慮したいと思います。以上です。
1:39:41	規制庁のニシキです。
1:39:43	火山やってる人からいうとやっぱりその噴出物堆積っていうことまた再度剃っんかいてあるのかもしれないですけど、どうしても、
1:39:53	見かけ堆積のイメージが強くてDR1というマグマ体積とか、そういうイメージがあるのでその用語の方もうまく組み合わせながら、
1:40:03	噴出量とかいったときにはどっちかわからないんで、後ろにちゃんとD Iをつけるだとかそういったなんかやり方もあるかと思しますので、噴出物堆積でどっち見かけなのかどうなのかっていうことなっちゃうよりは、
1:40:17	毛利REの方の言葉を、業界でも使ってるようなマグマ体積とかですね、例ですけどもそういったように直して表記した方が、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:27	誤解は少なくなるのかなと思ったりは個人的には思っています。ちょっとその辺もちょっと、
1:40:34	何か検討する時の参考にしていただいて、ちょっと資料の適正化をしていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。
1:40:44	はい、渡辺です。ご助言ありがとうございます。我々もちょっと用語調べてみて、
1:40:50	ちょうどよく馴染む用語に置き換えて、誤解のないような資料にしていこうと考えておりますし、以上です。
1:41:06	はい。規制庁谷です。ちょっとすみません時間取り過ぎてしまったかもしれないですけどどんどん確認をしないと時間もないので確認していきますけど、
1:41:15	ですね。
1:41:17	続いてなんですけど、順番にいくとね例えば 4849 とかで敷地周辺の
1:41:29	分布範囲っていうことで説明されてまさにこの内容っていうのは、
1:41:34	補足説明で、先ほど説明されたことがこういったことにな、総括されているということだと思うんですけど。
1:41:45	何かこれって
1:41:49	3月の会合でも、これが残された論点としてちょっと大事な位置付けだったと思うんですよね。
1:41:55	それを考えるとここで結果だけポンと書いて、
1:42:02	もちろん、ちょっと*とかで説明されているっていうのもわかるんですけども、ちょっとこのところは、北海道電力としてどんな評価をしているのか補足資料から持ってくるのかもしれないんですけど、
1:42:18	ちゃんとかう、こういうことをやって、
1:42:21	評価をこういうふうにして、こういうものを対象としてやってこうなったんですよっていうのが、
1:42:28	最初にこの
1:42:29	評価の概要みたいなのが、あるべきなんじゃないのかなって思っていて、
1:42:35	多分 48 ページ 49 ページにポンとこれが出てきても、
1:42:42	わからないと思うんですよねその辺ちょっと工夫され、
1:42:46	した方がいいかなということをお願いします。
1:42:54	渡部です。はい。4849、重要なあ、総合柱状図ということは私たちも認識してございまして、これ対応関係でいくと、42 ページ 43 ページっていうところが、まとめの

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:09	記載として対応していくんですけどちょっとページが離れてると、ぱっと見た時に多分対応関係が読み取りづらい、その柱状図にどうやって飛ばしてるのっていうのは、
1:43:19	わかりづらい印象かなあというのを今コメント聞いて思いました。
1:43:25	位置付けとして、
1:43:27	今 41 ページっていうのが、
1:43:30	13 火山原子力発電所に影響をおよぼし得る 13 火山の噴出物の分布状況を示していて、そのうち敷地近傍に、
1:43:41	認められるのは、おるところにある洞爺火砕流と言わない部屋南方にあるニセコの火山噴出物ですよっていう冒頭入りがあって、
1:43:51	4243 で、それでは敷地や敷地近傍における、
1:43:55	火山噴出物の分布状況ってのはどうなのか、これが多分火山影響評価における敷地及び敷地近傍の重要な基礎データがあると思ってまして、その答えが、
1:44:05	さっきの総合柱状図に総括されるということになってくるんですけども、この辺りの結びつきを強く、わかりやすくしていこうということと、
1:44:15	詳細は補足の 4 章ということで重要なコメントに関する回答なので、単独で切り離して、一式で流せるような構成が我々としてはいいんじゃないかと思っていて補足の 4 章に丸々送ってるという形。
1:44:29	主要なエッセンスだけここに持ってきてるんですけども、もうちょっとこの中でも、
1:44:34	40、補足の 4 社でやっていること、何でこんなことをしてるのかっていうことが読み取れるような記載にしていこうと思ってます多分今ちょっと弱いのが、42 ページの中でいくと、
1:44:47	丸が幾つかあるんですけど上から 123456789 個目ぐらいのところで、
1:44:54	岩内平和から見て敷地を超えた積丹西岸には、過去にしたボーリング調査の柱状図に軽石等の記載があると。
1:45:01	これはMMRの上位の被覆層にあるので、洞爺火砕流の可能性があるので検討した結果はこうですって次ぼんと、結果だけが端的に書いてるんですけど、この辺りをもう少しわかるように、
1:45:13	補足の 4 章との関連づけをしっかりとしながら総合駐車場五つにちゃんと飛ばせるような形にして、当社の言いたいことを、
1:45:22	再整理させていただければと考えてございます。以上です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:27	はい、谷です。はい。お願いしますお答えとしてはそれで十分なんですけど、私の言い方ちょっと悪かったなと思ったのが、確かに 42 ページってありましたね。で、
1:45:39	だからこういう、そう、さっきの説明にあったようにこういう範囲で説明、確認して、広域、こういう結果が出たんだよってというのは何か、
1:45:51	どういうところをこう見てて、
1:45:53	それが、
1:45:56	砂なんていうんですかね。
1:45:58	柱状図で書いてたのはこうでしたよってというのが、
1:46:04	何か例えば一覧表で出せるんだったらそういったものとかも、
1:46:08	の方が、具体的な評価ってというのが、
1:46:12	見えてくるのかなというふうな気持ちもあって、ちょっとコメントしたんですけど、渡部さんのお答えで、はい。
1:46:19	わかりましたというところです。
1:46:28	はい。いいですか。規制庁のニシキです。今のところですね、ぜひちょっと本編資料の方にきちんと持ってきていただきたいなと思っているのは、
1:46:40	古川さんのボーリングとかで当社の純層 50 センチがありましたとかあるんですけども、そういったといいますか、あとは二次堆積物ですとかあるんですけども、
1:46:52	これが本当に、
1:46:54	33 月 30 日でしたっけそのときの、
1:46:58	意図としましてはこれが本当 2、火砕流だ、遠方まで行ってんじゃないですかとかそういうようなことからきっかけで始まっている調査だと思いますので、
1:47:09	さくっと純層ですっていう中でそれがなぜそういう、いわゆるホール入戸だと判別できたのかとか、そういったことが一つ確認していくときの、
1:47:19	いわゆる論点といいますかそういう確認を、
1:47:24	すべき材料になってくると思いますのでその辺がきちんとわかるようなものを、ぜひ表に幾つか出してきていただくことになると思うんですけどそれはぜひ対応いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:40	ワタナベですはい。承知いたしました。先ほど谷さんがおっしゃったようなそもそも柱状図にどう書かれたかの一覧表ですとか、ニシキさんがおっしゃっていたどうやって純層と評価できたんだといったところを補足の4章に今入っている部分を、
1:47:55	抜き出してなるべく端的にここに入れられるようにしたいと思います。ちょっとそもそももう、
1:48:00	あんまりそのあたりをここに入れると全体の流れを犯してしまうんじゃないかっていうことを心配してて、極力端的に、詳細は補足にって思ったんですけど、かえってそこが、
1:48:11	重要なところでわかりづらくなっちゃってるよということだと思いますので、必要な部分をここ2ページかさばっちゃうかもしれないですけど、入れさせていただければと考えてございます以上です。
1:48:23	規制庁の一色です。
1:48:25	そうですねその議論になるようなことを確認した方と、確認しますかコメントとして出てるようなところっていうのは、メインなところ。
1:48:36	は、本編の方で、もう、
1:48:39	きちんと、
1:48:40	ダブる形になるかと思うんですけども、あった方が良くと思いますのでよろしく願いいたします。
1:48:56	規制庁谷です。ちょっとですね、今本編を主体に順番に確認していったんですけど、多分到底これ今日確認したいことが終わりそうになくて、
1:49:09	ただ、ちょっと新しいデータっていうことでこの、補足の4章に関わる場所にちょっと確認の事項。
1:49:20	移そうかなとも思ってます。
1:49:24	ちょっとここ、この、
1:49:27	4社の話をちょっと確認していきますね。
1:49:33	わからなかったのが、198ページ以降に検討の状況を、
1:49:41	示してるんですけども。
1:49:44	そもそもですね
1:49:50	どれぐらいその網羅して、
1:49:54	やってるんですかっていうようなところが、何かいまいちこの資料見てもわからなくて、
1:50:00	例えば、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:50:05	多分細かく見ていけば書いてあるのかと思うんですけど、
1:50:10	何か主要なボーリングがどうのっていうのから始まっているんですね。
1:50:15	で、
1:50:18	それは108、198ページの
1:50:22	軽石について、
1:50:24	これ、これはてる岸古川。
1:50:27	この話かな。
1:50:29	それを確認したと。
1:50:33	次にまた柱状図2っていう、この、この話が来ててこれは、
1:50:38	すみません、まずこの文章から確認します。
1:50:41	主要ボーリングに認められる軽石を見たよっていう話があってその次にまた柱状図にっていうのが書いてあってこれまたっていうのは、主要ボーリングの話でいいんですね。
1:51:01	はいそうです。これも主要ボーリングに対して行っている分析という位置付けです。
1:51:09	で、主要ボーリングっていうのを見たよという、このまたまでが書いてあって、
1:51:16	次のページに次に各地点の主要ボーリング以外2っていうのを確認したよって言ってて、
1:51:24	この主要ボーリング以外っていうのと主要ボーリングっていうののこの
1:51:29	区別が、
1:51:30	ここだけを見てわかんなくて、それってどういうこうせ整理なんですか。
1:51:47	渡辺です。藤 202203 ページを見ていただいてもよろしいでしょうか。
1:51:57	こちらが今回軽石ですとか火山灰質等との記載がなされている柱状図に書いてある堆積物を一式抜き取ってきているもので、左側に、
1:52:08	各地点名があってそれぞれのボーリングとなっております。
1:52:12	このうち、黄色いハッチングをかけているのが、直接分析、薄片をやっているもので、
1:52:21	灰色の網掛けをしているのが次にボーリングとの層相当層序対比によって行ったと言ってるジャンルのもので、主要ボーリングってのは言っているんですけど、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:52:33	ほぼほぼ網羅的にやっていて、次の方に群列で端の方に位置しているようなものを若干そうそう層状対比から、
1:52:43	評価してるといったことになってましてこれが一応意識リストになってございます。
1:52:54	うん。はい。はい。
1:52:57	そういうことだからあんまり主要ボーリングっていう言葉に引っ張られなくていいのか、いや僕はこれ見てて主要ボーリングが何何たるかが全然わからなかったっていうところがあって、
1:53:10	なおかつ各地点の主要ボーリング以外に書いてる中に、例えば没頭も入ってるのかとか、
1:53:18	そういうのも、
1:53:20	わからなかったんですね。rodはそもそもここには、
1:53:25	なかった。
1:53:27	のか。
1:53:28	あるけど対象にしてないのか、っていう、その辺のちょっと事実関係を、今確認させてください。
1:53:38	またあれですと、例えば古宇はあの右岸とかっていうのはこのボーリングを実施する前に事前検討としてのピット調査とか、
1:53:47	剥ぎ取り調査ってのは当然してて見立てを立ててボーリングしてるんですけども、その後、ボーリングを掘って、詳細に分析をしたりコア観察していつているので、
1:53:57	そちらのピット堀田とか地表で見たっていうものについては、その後、制度の拡充はしていないと言ってしまうとすればその地表地質踏査ピット調査っていうのは、今ここに示してるボーリングに包絡されるよっていう考えでして、
1:54:12	従って実施は事前検討としてやってますけど、その後、メインの地質調査として実施してるものはボーリングだということになって、
1:54:21	を包絡できると考えているのでこのボーリング結果を意識載せているというものになります。以上です。
1:54:30	規制庁丹です。その話を聞いてね、わかりましたというかやってることがわかりました。だからこれは網羅的にやってるんだけど、
1:54:41	網羅的にっていう、その露頭すべてこう見たことあることはすべてやってるとかじゃなくって、それをやらなくともボーリングで代表させるから、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:54:52	それを見れば網羅的なものになっていると、というような、
1:54:56	御説明かと思うので、
1:54:58	ちょっとですね、多分書いてる人はボーリングを主体にやってるん。
1:55:04	なんかそのボーリングに限ってるっていう前提はあるんだと思うんですけど、ちょっとその辺がわかりにくくて。
1:55:13	なおなおかつ主要ボーリングっていうのが出てくるから、よければ、私は混乱してしまったんですけど、ちょっとこの辺の対象が何なのかっていうのは、もう少しわかりやすく、今の渡部さんの説明でも、
1:55:26	が、赤穂は入ってくるようにしていただけたらと思います。
1:55:32	あとはちょっとここで、
1:55:34	これは
1:55:40	ただ単に、
1:55:41	確認なんですけれども、結局この評価をした時にこの 198 ページだけを言うと、
1:55:48	火山灰質って書いてるんだけどそれは、火山ガラスの粒子が、
1:55:55	少なかったりほとんど含まれないものもあったよと。
1:55:59	というようなことを書いてるんですけど、これってそもそも、
1:56:04	今の、あと、あとでこういった評価をしたん。
1:56:09	わかったんだけど、
1:56:11	その時は一体何を見て火山灰質っていうふうに書いてたんだろうとか、そういうのは、考えはありますか。要するにちょっと、
1:56:23	見間違えてたというか何かを多めに火山灰質な区間とかを取ってたっていうことかと思うんですけど、何が
1:56:32	は判断をこうこう、謝らせてたのかとかその辺ちょっと考えがあれば教えてください。
1:56:41	渡部です。はい。柱状図で、技術基礎実勢柱状図記載に火山灰質とかいうものがあって結果として、全く違いましたっていうのがそれなりの数今回ございました。
1:56:54	これについては当時の考え方が改めて確認整理をして、当方として今考えている結論としましては、
1:57:02	あと積丹半島西岸というのがまずう。
1:57:06	アイソパックでいくと、広域テフラである洞爺とか、阿蘇 4 があるよと知られているような地域に属していて、そういう観点からいったときに、ある堆積物の色調。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:57:18	これが上階層と比較して明色明るい色を呈しているというのを一つの判断材料としてございました。
1:57:26	そしてもう一つが、これは解釈が入ってくるんですけども、
1:57:30	火山砕屑物フォールのような火山砕屑物から主に構成されるのであれば、おそらく結晶質なものよりも、気象室なガラスを多分に含んでいるだろうと。
1:57:41	秘書室であるがゆえに資料を手にとって、
1:57:45	手でコナラしたときに、
1:57:48	税制ガラス質であるがゆえに弱いので潰れるというんですかね、行われるような感触があるもの、こういったものはおそらく消失なものであるんじゃないか。
1:57:59	そして、色調が上階と比べて明色を呈して言えば、火山灰質、火山灰の可能性が考えられるんじゃないかなろうかということで、
1:58:09	当時の柱状図に記載をしていたと、このような状況になってございます。以上です。
1:59:04	谷です。そうですね目視だけで、基本的には判断していて別にその他の鉱物が入っているだとか、そういうことでもなさそうで、
1:59:16	あくまで火山灰質のところはちゃんと漏らさず記載しようとした結果、今の渡部さんのお話のように何階移動色が、
1:59:26	ちょっと火山灰質っぽいねとかそういうので決めているんじゃないのかってというのが、今は判断ってことで、はい。確認できました。そういうことですね。
1:59:38	はいワタナベスはい、そうですね当時の考え方を改めて整理するとそういうことであろうと考えてございます。ただ実際、その手で来られる消費者から壊れやすいっていうのは、
1:59:50	風化に伴っても起こり得ることかと思うので、あくまでその目視の段階で、その可能性があるんじゃないかといった位置付けにしかならなかったんだろうなと思ってございます。以上です。
2:00:02	はい、谷です。
2:00:03	多分、今のような疑問っていうのがね、
2:00:11	わくんじゃないかと思うんですよね。それに対して、何か書かれたりしないですかこうだったんじゃないのかとか、そういうのは、特に今は書いてないですよね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:31	渡邊です。そもそもといったところは総論として今申し上げたようなことを書くことは当然できますので、多分導入として、そもそもってというのは、確かに、
2:00:42	必要かなと思いますので入れさせていただければと考えてございます。以上です。
2:00:48	井谷ですどこまで書くかそれも、後での考察というか、か。
2:00:54	確実なことでもないことなのでどこまで書くかとかお任せしますが、何か説明があった方がいいかなということ言っています。
2:01:02	あとは、今のが、今のが
2:01:09	今確認したのが、積丹半島西岸のうち、
2:01:17	と、
2:01:18	照岸古宇川左岸。
2:01:21	フロアお願時点の話が、
2:01:30	すいません、ちょっと一つ。
2:01:34	あってそのあとの範囲としては、
2:01:40	ちょっと待ってください。私も、
2:01:58	今日も、
2:02:27	あ、北海道電力ですけれども、先ほど1回、通信途切れて患者さんがしゃべりかけたぐらいでちょっと切れてしまったので、
2:02:38	もし差し支えなければもう一度ご発言をお願いしたいんですけど。
2:02:43	すいませんタニス私さっき大したことしゃべってなくて、
2:02:48	つつ、多分、
2:02:50	途中で黙っちゃったんじゃないかと思うんですけど
2:02:53	次、次の資料構成を今見失ってしまってちょっと今探してる途中ですすみません。
2:03:05	規制庁ニシキです。ちょっと私の方から、
2:03:08	簡単に、別のところを少し、
2:03:12	ちょっと確認したかったところ、ちょっと時間もあれなので、
2:03:18	ですね。
2:03:20	例えば、
2:03:21	それを80ページホームページ本編のちょっと戻っちゃって申し訳ないんですけども、ちょっと本編のところで、
2:03:30	80ページのところなんですけども、
2:03:34	ここで今回薄片観察を行っちゃって書いてるんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:03:39	この薄片観察の意義ってどういうことなのかなっていうそういうものを、
2:03:47	洞爺火砕流の、
2:03:49	何を確認しようと思って、
2:03:52	例えば
2:03:54	全体像の中のを確認していこうと思ったら何かこれ薄片の試料採取でこれぐらいしか取ってないんで、代表性としてこれでいいんですかとかあったりするんですけどもその辺ってどういうお考えなんですか。
2:04:08	渡部です。今回主要な検討というのが補足の4章にあった積丹半島の西岸の方の柱状図に、軽石という記載があってこれが何物なのか。
2:04:22	遠い的なことを考えるとmm&直上の被覆層になるので、洞爺火砕流の可能性はあるんじゃないかという疑念がこれを払拭しなきゃいけないと考えてございます。
2:04:31	それにあたっては、軽石と書かれているものに対応するような白色粒子について、これを対象とした薄片観察をかなりの数、
2:04:42	積丹半島西岸の方では実施しています。結果として軽石ではないですよっていう評価をするんですけども、それをするにあたって、そもそも、
2:04:51	洞爺火砕流が疑われてるんであれば、間違いなく洞爺火砕流であるところの薄片をつくって、そこにある薄片における軽石というものはこういうものですよというのをベースとして示す必要があるだろうと考えてございまして、
2:05:06	この80ページの、これまでも示してきている代表的なフォロー2の露頭において、
2:05:12	サンプリングをして薄片をつくって、そこに認められる軽石というものをまず頭出しとして紹介している。このようなものは、補足の4章の積丹西岸に行くとならないというような比較に使っていただけたらというような位置付けで作ってございます。以上です。
2:05:27	わかりましたありがとうございます。その比較対象のその大本は何ぞや、どういうすすものをどうやってことでやったっていうことを理解しました。
2:05:37	筒井次長81ページのところで、ちょっとこれ記載の書き方で、本当困っちゃったんですけども、上から二つ目の丸のところ露頭観察におけるトータルは普通であるって書いてあって、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:05:50	これ、何か科学的な指標の到達で確かあったと思うんで普通というとかかどんなもんだかよくわかんないんでちょっとこの辺は記載改めとい
2:05:59	いただければと思います。なんか確かトータルだと、何だっけ、2分の何か、何ゆかなファイの間のもので割ったもので、到達みたいだとか確かあったと思うんでちょっとその辺当たってもらえばと思いますので、お願いいたします。
2:06:15	渡邊さん承知しました。ちょっと普通であるというところが気になるということ、数値的なというのをやはりこう書くのであれば、定量的なものを示した方がより良いということでしょうか。
2:06:28	いやあまりここで、その認識ですけれども淘汰動のところ云々かんぬん言う必要があるのかも含めて、その店があんまり高普通トータルは普通と言われると、
2:06:40	なんかちょっと、
2:06:42	普通ってどんなもんですかっていう問いが来そうなのでその辺どういうふうに、ここでそのトータル技表現水室があるのかないかとも含めてちょっと検討いただければというふうに見せるのであればどう示せばいいかってことは、
2:06:53	御社の考えで示していただければいいと思います。
2:06:58	北海道電力の渡辺です。承知いたしました。等価DOT今書いているので、どうであれば多分定量的なものが普通来るべきだと、ということなのに、トータルは普通って多分なんてのは、まずちょっとおかしいってのはおっしゃる通りかと思います。
2:07:11	その上で、じゃあ、今この記載が必要なのかっていうところが、確かにあるなと思う。
2:07:18	考え持ってくださいますので、省くこともちょっと考えながら、適正化させていただければと思ってございます。以上です。
2:07:26	はい。ニシキですよろしくお願ひし必要なものを書いていただければと思いますのでお願いいたします。
2:07:32	ちょっと続いて、ちょっと122ページのところをちょっと見ますけれども、
2:07:37	ここで
2:07:39	支笏の重力ズーが横山&
2:07:42	青田1965ってあるんですけども、何か重要数って何か新しいやつでないんでしたっけってところがありますが、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:08:04	ニシキですけどちょっと例えば、何か産総研の何だっけ、地質ナビとかで見ると何か重力図っていうのが、98年の札幌地域重力図とかあいつたものが出てきたりするんですけどもそれはあまりサンクションされずにこっちの方は何か、
2:08:20	重要な種のものが書かれてるからレビューされてるっていうちょっとその新しい重力図があるのに何でこちらを使って評価されているのかなというのがちょっと、
2:08:30	気になったんでちょっと確認させていただきたいんですけども。
2:08:42	北海道電力箕輪です。支笏の16図に関してなんですけれども、
2:08:48	今おっしゃったような一般的な広い範囲含め、表現してる力あるところは承知してるんですけども、個別の火山について、
2:08:58	どこどこ行っている文献についてはそんなに新しいものはないのかなと。
2:09:04	認識でこちらの文献を示しているところでございます。
2:09:09	規制庁ニシキですあ、わかりましたありがとうございます。
2:09:13	続いてちょっと129ページのところで同じく支笏カルデラの、今度は地殻変動のところのデータなんですけども、
2:09:22	当間も、例えば129ページですとこれって何だ、ヒコウのデータが出ていて、結構年収変動が大きいなと思ってパツと思ったんですけど、
2:09:34	これって何か、その次のページの、
2:09:37	図どっかで見ると、なんか下の方に、
2:09:40	赤でメールんばんs fさんのI、GSと書かれてるんですけどこれって、
2:09:52	あれですよ。近く変GNSSの解析ソフトのバージョンのソフトウェア名にあってF3って書いてますこれF3階を使って評価されているんですけども最近もう
2:10:05	F5階でやるっていうのは地理院さんも、我々その火山部会とかやっててそこでぜひF5階で解析してくださいとかっていうのが、
2:10:14	ばらつきが少なくなってきちんと標高の評価できますっていうふうになってそれに、例えば9.3とかいったところ差し替えて評価してきてるんですけども、
2:10:24	この辺でF3回なのか動かないのかっていうんパークF3階を使ったままなのかって評価してるのかなと思うんですけどそれってどういったデータ使ってるんですかね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:10:35	北海道電力箕輪です。現在の当社の資料に示しているものについてはこれまでの継続性からF3回を用いて後ございます。もちろんF5階があることは承知してました。
2:10:51	以上です。
2:10:53	わかりましたように、認識はされているけれども継続性ということで、F5階を降り方、さかのぼって変換できるみたいなそこは特にせずに、F3階の方で、資料としては作成されてるということを理解しました。
2:11:09	以上です。
2:11:19	規制庁谷です。
2:11:21	大分時間も過ぎてしまって、
2:11:24	まだまだ多分それぞれ確認したいことがあるんですけども、ちょっと岡沢の方話はこれぐらいにしとかなないと、ちょっとスケジュール聞けないなっていうのがあって、
2:11:36	これぐらいするんですけど最後にちょっとですね。
2:11:41	今日柱状図の明らかな動きを直しましたよっていうような話があったと思うんですけども、これ他の
2:11:49	他の事業者さんにも言ってるんですけども、この直したところっていうのは、ちゃんとその履歴が残るように、もともとなんて書かれてて、
2:11:59	こういう理由でこう直したってそそれをちゃんとなお直しておかないと、
2:12:05	またですねこの一次データを変えたんじゃないのかと、明らかな動きとは言いますけれども、かま直されただけだったら、何が明らかな動きなのかと。
2:12:19	いうところもありますので、私は個人的にはそんなのもう直さなくてよくて、
2:12:26	元のデータを貼っつけたまんま、ここは今後、こういう記載の動きですって言って、
2:12:32	元の記載のまま載せればいいんじゃないのかというのを思ったりはするので、その辺
2:12:40	ちょっと資料を考えてください。
2:12:45	直すんだったら、ちゃんと直しているのをきちっと残すということでお願いしますね。
2:12:54	ワタナベです。はい。注釈で何がどう変わったかを書かせていただければと考えてます先ほど仲山が言っていたように気質、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:13:06	品質を既出で書いてるとか、貨殖の勝野、千賀野木編じゃなくて3図になってるとか、本当に恥ずかしいような動きなんですけど、そこについては、我々としてはやっぱり、
2:13:20	正しい字にしたいなと思っていて、それをした上でそこに注釈を振らせていただいて修正しているとさせていただければと思います。うん。はい。大丈夫です結局注釈で加工が、
2:13:33	そのまま載せて注釈でこれはこういう動きですって書こうが、恥ずかし動きっていう部分は変わらない気もするんで、その辺、おまかせしますよ。だけど、こちらとしてはちゃんと
2:13:47	変更の理由と変更がんな、何。
2:13:51	どう変わったのかっていうのわかるようにしてくださいというのがリクエストです。
2:13:57	あとスケジュールの話を、
2:14:01	簡潔に短い時間でざっと説明聞いただけ聞きたいと思いますので、説明をお願いします。
2:14:14	ちょっと当方メンバーちょっと入れ替わりますので、少々お待ちください。変わる前に北海道電力からは特にこの火山に関してここは聞いておきたいとかありませんか。大丈夫ですか。
2:14:29	はい。大丈夫です。
2:14:31	特にございません。
2:14:33	はい、ではちょっと詰めてください。町長お待ちください。
2:14:38	一つは、すいませんササキです。衛藤。
2:14:41	今日の今日の資料ですね前回の会合から時間経ってるというのもあって、かなり適正化してきたつもりです。その中でちょっと、
2:14:54	技術的なところですねニシキさんとか谷さんとかと
2:15:00	ベルトの部分の基解釈とか、そういうところの、
2:15:05	突っ込んだ議論ってのはなかなかする場がなくてですねちょっとあれだと思うので何かこう、
2:15:12	これもあくまでも個人的な提案なんですけども、もし、
2:15:16	こういった場合に
2:15:20	例えば今回は、
2:15:22	資料はこうやって不と補足資料も含めて、こうやって、
2:15:27	何百ページと提出していただいたんですけど、そのうち今日は2条だけやりましょうとか、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:15:32	或いはその参考資料の4章だけちょっと今日、確認しようとかって いうバーにはできないもんですかねそういうことは、
2:15:41	規制庁タニ私のどもとしてはぜひそっちの方がいいと思うんですよ。
2:15:46	だから、会合にどこまでかけるかっていう区分というのが大きく、まず あります。でも、
2:15:54	それで、それがヒアリングと一致すればそれがまずはいいいんですけれど も、一致しなくても、何かたっぷりあって全体を一通りこう出しておき たい。その中で、順番にちょっとヒアリングで確認するって、
2:16:09	そういうやり方があると思うんですけれども、多分ちょっと、
2:16:14	考えた方がいいと思うんですよね僕これ今回のやり方として一案として はですね、その補足の4章だけを先に説明するというやり方はあったか なというふうに思います。
2:16:29	わかりましたありがとうございます。ちょっとこちらの方でも、私個人 も含めてですけどきっちり考えて、その辺のやり方考えていきたいと思 いますのでよろしくお願いします。
2:16:41	はい。お願いします。ちょっと私の方はですね、こう出してみないと、資 料が出ないとこれはすごいボリュームだなんていうのがわからないとこ ろもあるんで、そこは次、事業者さんの方で、
2:16:52	1回これが適切な量なのかっていうのは、考えてもらった方がいいんだ ろうと思ってます。
2:17:32	それじゃ、メンバーそろいますので工程の方の説明させていただきます す。
2:17:38	はいどう電力の金岡です。工程管理についてご説明させていただきます す。
2:17:44	お配りしている資料なんですけれども、A4横1枚、こちらの方で、前 回の審査会合でいただきました指摘事項に対するその対応状況。
2:17:55	をまとめております。こちらの方でまず、対応状況について説明させ ていただいた後、論点のスケジュールそちらの方説明させていただきます す。
2:18:07	A4横1枚なんですけれども、
2:18:10	こちらについては、
2:18:15	左側に指摘内容を審議結果として指摘内容を記載してございます。
2:18:22	これについては大きく2点ございまして、一つは、スケジュール管理に ついて改善することと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:18:30	等残りにつきましてはその改善を基にですね、最終的な基準津波の策定期、工程を示すことということを、
2:18:40	なっております。これに対する対応状況、右側にまとめてございますけれども、
2:18:46	一つ目ですけれども、こちらはスケジュール管理の改善、
2:18:52	の状況になります。こちらについては、引き続きですね情報の一元管理を行った上で、スケジュール変更がございましたら、
2:19:04	変更点、また、へんその変更による影響ですね、そちらを明示的に示した上で、社内の会議体でですね、
2:19:16	その内容を確認していくと、そういった形で意思疎通をしっかりとというような改善をですね、行っております。
2:19:26	二つ目の点でございます。
2:19:29	こちらについては、地震津波に関する審査会合をですね、
2:19:34	プラントに関するスケジュールの部分、後程説明させていただきますけれども、
2:19:41	スケジュールの部分については、直近のプラントに関する審査会合で提示したスケジュール、そこ、それぞれの状態ですね、
2:19:51	スケジュールを掲載させていただいております。
2:19:57	これにつきましては、当該審査会合での
2:20:02	説明対象外であるというようなことをですね、資料に記載してですね、網掛けの状態とさせていただいております。
2:20:13	こちらの表現で審議対象外であるというようなことを記載してございますけれども、ちょっとその表現は資料では改め、
2:20:23	でございますので、こちらの表現も本文の方もちょっと見直させていただこうと思っております。
2:20:32	0
2:20:33	その逆も同様ということで、括弧書きで記載してありますがプラント側での審査会合での提示の仕方もですね、逆に、地震津波側を網掛けするというような形で、
2:20:47	資料をご提示していくというようなことにしております。
2:20:54	最後三つ目ですけれども、
2:20:56	この、このような改善を踏まえてですね、最終的な基準津波の策定期を
2:21:04	含めたようなスケジュール、それを

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:21:08	今回、作成してございますのでそちらの内容を説明させていただきます。
2:21:13	論点スケジュールの方、概略説明させていただきます。
2:21:19	こちらの資料ですけれども、
2:21:23	ページで言いますと、2ページ目のところになります。
2:21:29	2ページ目のところなんですけれどもこちらが
2:21:35	作業方針ですとか作業状況の回数、今回の改定内容改正7となっております。
2:21:42	こちらに記載している内容を当該ページのところでですね、概略説明させていただきます。
2:21:49	通しページでいきますと、6ページを見てください。
2:21:57	6ページなんですけれども、こちらは通しナンバー一番のところがございます。
2:22:06	こちらについては、検討は終了したということとあとは震源特定せずのまとめ資料の作成これが終了したというような旨を、
2:22:19	更新してございます。
2:22:21	続きまして7ページをご覧ください。
2:22:26	7ページの方こちらの変更点ですけれども右下の作業状況のところになりますが、
2:22:33	こちら、
2:22:35	は、当検討が終了したという旨を更新してございます。
2:22:42	続きまして10ページの方をご覧ください。
2:22:49	10ページの方こちらが通しナンバー7番で基準津波の策定のところになりますけれども、
2:22:56	真ん中辺の記載を追記してございます。
2:23:02	こちらは防潮てに関わる新たな入港ルートに関する対応状況ですとか、血清アクセスルートトンネルこちらの対応状況これを、
2:23:15	作業方針として記載してございます。
2:23:19	あと作業状況についても、それに連動してですね、更新をしてございます。
2:23:27	続きまして11ページをご覧ください。
2:23:32	11ページの方を通しナンバー8番ですけれどもこちらは作業方針のところにちゃんと入構トンネルですとか、形成アクセストンネルの、
2:23:45	項目を追加してございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:23:51	あと、13 ページをご覧ください。
2:23:56	13 ページ目からこちらが火山に関わる立地評価の項目でございますけれども、
2:24:05	こちらは当検討は終了というようなステータスに更新してございます。
2:24:13	14 ページ、その次の 14 ページもですね、引き続き火山ですけれども、同じく、検討は終了というようなステータスに変更してございます。
2:24:24	以上が、作業方針や、作業状況に関わる変更でございます。
2:24:31	続きまして、作業スケジュールの方をご覧ください。こちらの改定内容については、東芝、ページで言いますと、
2:24:43	5 ページ。
2:24:46	5 ページに書いて 7 ということで、今回のスケジュールの変更点を記載してございます。
2:24:54	こちらについても当該ページの方で概略説明させていただきます。
2:25:04	ページ数でいきますと、
2:25:06	23 ページ目からになります。
2:25:10	23 ページ目なんですけれども、
2:25:14	今回、
2:25:16	このスケジュール表なんです、全般的に変えたことといたしまして上の方に月と、あと欧州の表示がございますけれども、
2:25:27	前回まで上旬中旬下旬というような表現でしたけれども今回から週単位の表現に見直しをかけてございます。
2:25:38	あと通しナンバーの一番から 3 番なんですけれども、こちらについては基準地震動の策定の項目でございます。
2:25:48	こちらは一番、通しナンバー一番のところ、9 月のところにですね、まとめ資料のスケジュールを追記してございます。
2:26:01	これに伴ってですね資料の提出時期等、これに合わせる形で、通しナンバー 2 番と 3 番のところの資料作成時期を見直してございます。
2:26:15	続きまして、通しナンバー、このページ、通しナンバー 6 番と 8 番 9 番、になります。
2:26:24	基準津波の策定に関わるようなところをですけれども、
2:26:30	こちらは変更前が灰色となっておりますけれども、
2:26:36	審査会合にかける時期ですね、資料停止と審査会合の時期、こちらについては、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:26:47	前回資料提出 9 月下旬だったようなところをそこから約 1.5 ヶ月ぐらい スライドをさせていただいてございます。
2:26:57	続きまして通しナンバーで言いますと 7 番、になります。
2:27:03	こちらについては、基準津波の策定に関わるような項目ですけれども、
2:27:10	こちらの
2:27:14	検討結果を示すような線ですけれども、こちらが審査会合の時期です ね、これを 11 月の 7 日の週にスライドをしておりますと約、
2:27:31	1. こちらも 1.5 ヶ月ほどのスライドと、
2:27:35	というような見直しをしてございます。
2:27:38	こちらですけれども、
2:27:40	7 番の項目なんですけど、
2:27:43	こちらに記載しているクリティカルパス、赤い線になりますが、
2:27:48	こちらについては管路解析に関わる繰りカルパスになりますけれども、 今回の見直しです、
2:27:57	もともとはホシ、星印の審査会合からこのクリティカルパスを視点とし ていたんですけれども、今回の見直しです、
2:28:08	三角印の資料停止の時期からクリティカルパスを下ろすと。
2:28:15	これが事業者当社事業者としてのですね作業実態になりまして、資料提 出した、提出した時点で次の
2:28:25	工程にですね、先行着手な形になりますけれども、そのような実態をで すね、表現するということで、視点の記載値を今回見直しでございま す。
2:28:39	その下、7 という項目になります。こちらについては、ちゃんと有効ト ンネル等に関する基準津波への影響評価をするという項目を、
2:28:51	今回一つ追記してございます。
2:28:57	それから、は、通しナンバーの 8 番。
2:29:03	すいません通しナンバーの 10 番と 11 番、こちらについてもですね、
2:29:09	審査会合の時期をですね、1.5 ヶ月スライドするというような見直しを してございます。
2:29:19	続きまして、
2:29:22	次のページになりますけれども、
2:29:30	通しナンバーでいきますと 12 番 13 番、阿藤、14 番、から 17 番こちら は火山の
2:29:40	スケジュールとなっております。こちらについても、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:29:47	廃炉が前回でしたけれども、
2:29:50	約 1.5 ヶ月ほどですね、スケジュールをスライドしていると。
2:29:56	というような見直しを行ってございます。
2:30:00	それに関連して通しナンバーの 20 番、こちらにつきましても、
2:30:05	資料作成時期が
2:30:08	その上の項目と連動しますので 1.5 ヶ月、開始時期を見直しているとい うような
2:30:16	今回、変更を行ってございます。
2:30:20	すいません。次のページを見ていただきたいんですけども、
2:30:30	25 ページ 26 ページが、こちらがプラントに関わるような工程となっ てございます。今回からですねこのような網掛けをしてですね、あと、
2:30:44	その補足説明といたしまして右下のところに、
2:30:48	このページは、資金の審査会合ということで 8 月の 5 日になりますけれ ども、その工程を記載してますというような補足説明を、右下に記載し てございます。
2:31:02	あと、このページ、25 ページにですね、
2:31:07	カー赤字で吹き出しで記載している項目がでございます。
2:31:12	こちらについては、
2:31:14	入力津波に関わるような項目のところになりますけれども、
2:31:21	今回このプラント側の工程は書いていないんですけども、
2:31:28	地震津波側の工程が今回変更になると、いうことを受けまして、このプ ラント側の工程でどのような影響があるのかというところを、この吹き 出しで記載しているところになります。
2:31:43	あと今回基準津波の工程が約 1.1 ヶ月、後倒しになりますのでその結果 この入力津波のところについては、ちょっと影響があるんですけど も、その影響については今後検討しますというような旨の吹き出しの記 載をしてございます。
2:32:00	あと最後に 16 ページをご覧ください。
2:32:06	26 ページの同じように赤字ます。
2:32:09	最後のページをご覧ください。
2:32:11	吹き出し記載してございますけれどもこちらについても、地震津波の工 程見直しによって、こちらは津波 P R A の項目になりますけれども、こ ちらの方、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:32:24	が、ちょっとスケジュールの見直し検討が必要になってきますので、今後検討しますというようなものを、
2:32:31	影響があるようなところをこの2ヶ所を記載していると、というような注釈を記載してございます。
2:32:38	説明は以上になります。
2:32:42	ご質問等お願いいたします。
2:32:44	規制庁谷です。もう時間も大分押しているのですが、細かな紙質問とかは、せずにこれは資料として、説明としては聞き置きますし資料としてはこれを、
2:32:57	見さしてもらおうようにはします。
2:32:59	ただ、ちょっと
2:33:01	最初の1枚紙の説明なんですけれども、
2:33:05	これはあの会合で議論するのかもしれませんが、
2:33:11	これ
2:33:12	今この説明を聞くと、
2:33:15	何か一元管理っていうことを審議結果で一元管理、一元管理しますよと 言ってるのと、この出し方が何か合っていないんじゃないのかなって いう気は。
2:33:27	しててさ、すなわち何かこうプラント側と、地震津波側でこう出すもの がちょっと毎回、
2:33:34	違うんですよ。
2:33:36	ていうことですね。
2:33:38	例えば、地震津波には前回の会合、
2:33:42	までのプラント側のスケジュールが載せられるっていうのは、その辺が ですね、ちょっと何かこう、私聞いてて、
2:33:51	よくわからなかったそれってこう、
2:33:55	この市の言ってることとやってることあってるのかなっていうのをちょ っと思ったりしています。これ、ただ、会合とかでも説明してもらっ て、
2:34:05	我々の方の意見とかも言うんだと思いますので、
2:34:11	今私が感じたこととして伝えておくだけです。
2:34:17	北海道電力の金岡です。江藤すみません説明不足しておりまして、申し 訳ございません。この一元管理につきましては、社内的に、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:34:27	地震津波プラント側一元的に管理しております、そちらの社内工程は最新版常に最新版ですね、管理させていただいておりますので、その旨を記載させていただきます。ただ、
2:34:43	規制庁さんの審査会合用資料につきましては、審査会合減るまでは、相手側の方は更新できないと考えておりますので、今は審査会合資料はこのような形で、
2:34:54	提示させていただいております。以上です。
2:34:58	はい。北海道電力の考えは聞きおきますけれども。うん。あとは、会合とかで、この考えで、
2:35:06	説明してもらったと思います。
2:35:12	はいということですよねこのスケジュール北海道電力の方からも、
2:35:23	はい、大丈夫です。
2:35:27	はいそれでは谷ですけど本日のヒアリングを終わりにしたいと思います堂本。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。